

2002年 四季折々 Mutsu

24. 2002年 1月 from M. Nakanishi 2002. 1. 1.

謹 賀 新 年

平和で明るい希望に満ちた年でありますように!!

本年もよろしく願いします

平成 14 年 元 旦

A Happy New Year & Merry Christmas !



孫も 2 回目のお正月 元気一杯で みんなをこまらしています
でも 孫がくると 家の中が向日葵のごとくパッと明るく活気がでできます

平和への願いとは逆に戦争の中で始まった新千年紀。

『戦い』『不況』『デストラ』『狂牛病』と騒然とした『乱世』の弱者に厳しい世の中。

平和で穏やかな時代が早くくることを願っています。

でも 「良い 悪い」は別に立ち止まれない大きな変革のうねり 価値観まで大きくうねる混乱の中
今までの路線の総轄無く 路線否定だけが横行する時代。

押しつぶされぬようガンバラネバ・・・・・・・・

苦しむ仲間を見て 手を貸す事もできず。歯がゆいが どうする事もできず。

道先案内人のいないこの道 色々言われても 今の生き方変える事もままならず。自分の信じてきた道
をただ「ひたむきに「正直に 精一杯」進むしかない。

20 世紀が科学の時代に対して 21 世紀は「情報」「人間・心」の時代といわれている。

早く混乱が収まり、「情報」が「人の豊かさ」に寄与する時代になればよいのですが・・・・・・・・

材料技術者としてのサラリーマン生活も終局にさしかかり「次の世代に何を残せたのか?」を思うとふつ
とさびしくなります。

先日 東京での大学時代の山仲間の会である先輩いわく

『老後になって 何が大事かというと 「金」と「仲間」だけ。 仲間が支え。仲間のありがたいこと……』

本当に仲間のありがたさが じわじわと感じる今日この頃。『今までの道に間違いなし 前向いて 今を
ひたむきに 精一杯 進もう。 老後はなんとかなるやろう』ですと。

好奇心と前向きのアクションだけは失わず・・・・です。

お世話になりますが、本年もどうかよろしくお願いします。
また 色々 声かけてください。

2002. 1. 1. 除夜の鐘を聞きつつ

神戸自宅にて Mutsuo

● 山口県のたたら製鉄遺跡

長い間ほったらかしにしていた山口県と島根県の県境に近い福栄村「大板山のたたら遺跡」最近 ホームページ検索していて、この遺跡が整備「たたら太鼓」グループなど村おこしの中心として街の人達によって守られている事知り、アルバムひきだしてまとめました。

私が出掛けたのは山口県に赴任した 1993 年の 10 月。

地図や新聞で隠れキリシタンの里とその奥のたたら遺跡を知ったのがきっかけ。

50cc バイクで出掛けたのが最初。秋吉台のカルストを越え 萩のまちを抜け、何回となくこの山中の道をバイクで走りました。

長門峡・フォールンヘルス 阿東温泉 そして 佐々並市の古い家並・阿東の日本南限のりんごなどそしてその先の津和野・乙女峠にも などなど本当に懐かしく思い出しています。

25. 2002 年 2 月 From M. Nakanishi 2002. 2. 9.



神戸自宅の庭で清楚な香りを楽しませてくれた「蠟梅」 2001. 1. 13 神戸自宅で

2 月になり、日本各地から梅便りが聞かれるようになりました。

寒い冬の中 清楚な花の香りを漂わせてくれた「蠟梅」。随分楽しませてくれましたが、もう終わり。今年は暖冬。いつも一月の終わりには氷結する茨城県の「袋田の滝」も今年はまだ凍らずとか・・・恒例の滝見物にまだ行けず。

アフガン復興へ 新しい風が吹き始めると期待したのですが、世相はまだまだ混迷・騒然 不景気の継続の中 雪印に政治の混乱と追い討ち。もうルールなしの何でもあり リーダー不在の混乱が続いています。時代過渡期の末期的症状か？ 早く新潮流が見えるようになればいいのですが・・・・・・。

企業合併・統合は日常茶飯事 もう珍しくもなし。私の会社も事業統合を目指してまっしぐら。この先 未知の世界ですが それに賭けるしか無し。頭では解っていても・・・・。

気持ちを高めて先頭を歩かねば・・・と思うのですが、厳しいものです。

今年 こんな祈りを知りました。

God

Grant me the serenity to accept the things 変えられないものを

we cannot change.

受け入れる心の静けさと

Courage to change the things we can

変えられるものを変える勇気と

and wisdom to know the difference.

その両者を見分ける英知を

今月もまた とりとめもない文で申し訳ありません。 でも 元気に今年もスタートしました。
「時代が代わってゆく」とひしひし感じながらの1年です。

頑張らねば・・・

でも この「ガンバラネバ」の脅迫観念も随分小さくなりました。前向いて 自分なりに・・・です。

家族は孫が加わりにぎやかになりましたが、今度 2月の末より、息子が2年ほどアメリカ赴任。
これで 息子もひとり立ちするでしょう。

家内は子離れです。

また 家族一人一人バラバラの生活になりますが、絆は「宅急便と fax」から「e-mail」へ格上げです。

今年に入って 本当にウィルス付のメール多くなっています。パソコン要注意ください。
また お便りください。

2002. 2. 8. 柏にて Mutsu

● country walk

2002 年 冬 点 景 2002. 2. 9.

また 取り留めない話ですが、相変わらず週末には神戸と柏を行ったり来たりしています。
1月のwalkを 「2002. 冬 点 景」 として紹介します。

民族博物館 特別展「北太平洋の先住民交易」

1月12日 Eさんが民族博物館 特別展「北太平洋の先住民交易」の切符を送ってくれ、娘の家族と一緒に吹田の民族博物館へ。寒い寒い凍りつく北海道・樺太・アリューシャン・北米大陸の先住民の文化交流・交易展。凍りついた極寒の地でも広い交易がなされているのにはビックリ。

こんな極寒のシベリヤ大陸で行なわれている「製鉄・鍛冶」の図を見つけてビックリしました。
この北方の文化圏では中国製の鉄より、日本の鉄の方が品質が良く広く交易されたという。

海によって閉ざされた狭い日本で 長い時代をかけた和鉄の技が伝来の地中国・朝鮮半島の鉄を凌駕していた事にもビックリしました。

ここにも日本の智恵の素晴らしさを知りました。

残念ながら写真撮影禁止で写真とれず。国会図書館所蔵とあったのでいつか行こうと思います。

ふっと思いついて余り知られていない技能の世界「和鉄の技」について整理してみました。

日本刀の技も僕らの知っているのは直ぐ備前長船などというが歴史の中では北方系の蝦夷が持っていた「蕨手刀」を源流として中世奥州の刀鍛冶が日本刀の原型をつくりそれが国内に広く伝播したという。ほかに、東大寺の釘や奈良の大仏の鑄かけの技術 そして 出雲大社の太い3本組の御柱を結束した鉄輪の技術など見過ごしてしまいそうな中にとんでもない技術が隠されています。

知ってびっくりするが、そこは技術屋 見抜く眼を持たねば・・・と思うのですが、中々ダメ 難しい。

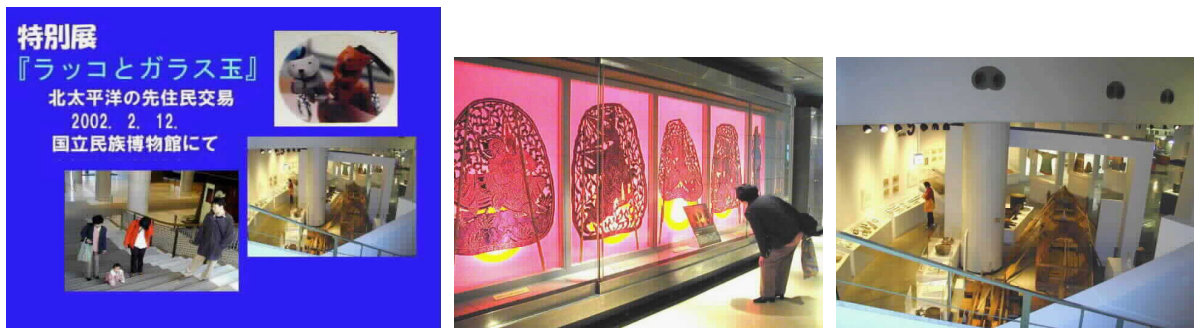
今の時代 そんな職人の技に目を向ける暇も無し。機械ロボット万能・情報万能と人は言う。

でも最近ちょっとそんなものにも眼をむけようとの風潮ができたかなあ・・・と思っています。

技術・情報万能への反省からのやり直し はやりで終わってしまわなければいいのですが・・・・

二才の孫 博物館の展示など嫌がるかと思っていましたが、どうしてどうして 案内係のお嬢さんに愛嬌振りまき 展示物のドラを鳴らしたり、展示品のフィリピンの車に乗ったり マレーシアの影絵芝居に見入ったり 結構楽しんでいました。

発見です。どこへでも連れて行けるようになりました。



大阪吹田 国立民族博物館で 2002. 1. 12.

● 「日本各地の鬼伝説と鬼 「鬼は悪者か・・・・」

2月3日 2月3日は節分 「節分と鬼」 「鬼は悪者か・・・・」産鉄の民と鬼伝承が密接につながっている事知るにつけ、昔よくいていた「鬼にもいいやつおんねや・・・・」と。

鬼の仮面に隠され 名指しで決め付けられたものの裏にある真実を少し書き出してみようと集めた日本の鬼伝説の資料眺めています。

今アフガンで国際社会でアメリカの強烈な勝者の論理がグローバル スタンダードの名のもとに吹き荒れています。

何処かで歯止めをかけねば・・・・

何か 鬼伝承で仕掛けた強者の論理。今と似ていないか・・・・

アフリカの昔話を集め研究している言語学者のEさんに教えてもらった昔話・語り部の面白さ。

「アフガンの出来事の影響が貧困に喘ぎ ひたひたとイスラム化が進むアフリカでどんな形で現れてくるかを見てくる」と来年3月に計画されているアフリカの昔話特別展の準備にアフリカへ旅立ったEさん。



日本各地の鬼の伝承を聞くたびに産鉄の民としての労働の厳しさと迫害の歴史を思い 伝承の裏にある弱者の真実を見抜かねば・・・

そこに今の現実を解き明かすかぎありや・・・

● 播州の雪彦山

1月27日 神戸に帰ったついでに 久しぶりに 家内と二人播州の屋根

雪彦山の麓にある夢前町日帰り温泉「雪彦温泉」へ行ってきました。

山口・美祢にいた時には 疲れると 俵山温泉や長門湯本温泉でポケーと浸かるのがリフレッシュでしたが、柏では中々ままならず。久しぶりに山中の温泉でリフレッシュ。

雪彦山は日本三彦山の一つ 修験の山。関西では岩登りのメッカ。冬の曇り空に岩峰を突き上げ素晴らしい景色。今度は登るつもりです。

日本三彦山 九州の英彦山 新潟(越)の弥彦山 そして播州の雪彦山 いずれも急峻な峰を持つ修験の場でありながら、その麓は古代開けた土地。 山々を駆巡る修験の人々とたたら衆とは深く結びついているとの説もあり。鬼と同様「和鉄」や鉱山と関係する土地といわれる。

英彦山の北は筑豊の炭鉱地帯 古代から開けた多くの古代遺跡があり すぐ麓のからはたたら遺跡も見つかっている。

弥彦山と「たたら」との関係はまだ訪ねた事がなく良く知らないが、彼の地は大陸との交易が盛んな古代鉄の集散地「越の国」。播州雪彦山の直ぐ西は古代製鉄発祥の地「千種」。

そう考えるとまんざら信憑性のない事でもなさそうである。



今 NHK の「日本人 遥かな旅」1-5 巻を読んで 古代に夢はせている時でもあり、山中雪彦山の岩峰を見ていると何か 渡来の民になったような気がしました。久しぶりの山の中の温泉 静かな山中 ポケーと山をみつけながらの湯 リフレッシュ リフレッシュです。

ついでながら 先日 TV 見ていたら 「添乗員が奨める温泉宿」の第1位に「山口県長門湯本温泉 大谷山荘」が選ばれていました。

「そらそうやろ」と思いつつ、一つ山口美祢の自慢話が加わった気分でした。

● Iron Road 和鉄の道



以前に集めていた砂鉄の写真や「和鉄の道」で使った写真などをこの正月整理。今整理すると違った角度で見えると考え、「和鉄の道」の口絵的に「日本各地の砂鉄」「絵図にえがかれたたたら製鉄図」「和鉄の技」「日本各地の鬼伝説」の四つに分けてまとめました。

「Iron Road 真金吹く 吉備」の項まとめようとしていますが、以前集めたのも古く「もう一度出掛けて」と思っています。

今 NHK の「日本人 遥かな旅」の話に入れ込んでいます。

「日本人の本質の中に相手を徹底的にやっつけず 取り込んでいく」姿勢は縄文・弥生時代からの日本人の智恵。

外国からは「あいまいさ」の表現としていつも批判にさらされるのですが、今一番必要な解決の智恵。

桃太郎伝説や日本の「鬼」伝説の中にもそれを見えています。

そんなこんなでもうちょっと吉備調べたいと思っています。



3 月 自宅の庭にはサクラソウが満開



3 月 3 日 息子 2 年の予定でアメリカへ旅立ち
握手しているのは孫(娘の長女 恵奈ちゃん)

あっというまに 3 月。大阪湾でのいかなご漁解禁の話題を東京の TV でも報じています。

梅満開の便りが各地から届くとまたいやな花粉症の季節。

家内は例年のごとく『いかなご』の釘煮をはじめています。

私は昨年よりはちょっとましですが、花粉症 やっぱり出てきました。涙ぽろぽろ 鼻はおかしいし、大変です。

アリゾナ ダイヤモンド バックス優勝にわいたフェニックス。

数年前 毎月のように出張で通ったフェニックスは、今 雨の降らない砂漠の街・寒い冬を越す老人たちの避寒の地を逆手に取った大リーガーのキャンプ地へ。 若者が訪れる町へ イメチェン。

2 月後半から アメリカ大リーグのキャンプが始り、その郊外のメサやテンピ スコットディール ピオリアなどの町の名が毎日のように新聞・TV に出ている。

そして ツーソンも・・・・。

多くの日本人大リーガーが誕生して連日報道されています。また、あのリポビタンD の広告の赤い岩山が アリゾナ北部に広がる赤と緑の台地 セドナの岩山

以前 一緒にいった若いエンジニアが「ここは猿の惑星か?」と言ったフェニックスの象徴 ベンガラ色のらくだの形をした岩山とアリゾナ沙漠。

若いひとたちの新鮮な発想にビックリしたものです。

はつらつとした若いエンジニアにも随分沢山出会いました。出身国千差万別の若者が会社を動かしていました。 その中で自分も若返った気分がしたものです。



アリゾナ フェニックスの街と沙漠の岩山

今 新庄・イチローはじめ多くの日本人大リーガー誕生とその言動にそんな若いエンジニアの群れとが重なっています。

息子も今日 会社からの派遣研究員として2年の予定でアメリカへ旅立ち。
元気に若者らしく前向いて アメリカで頑張ってきて欲しいと思っています。

こっちも 花粉症吹っ飛ばして がんばらねば・・・・・・・・・・
また お便りください。

2002. 3. 3. 関西空港で 息子の旅立ちを見送って Mutsu

● Iron Road 和鉄の道 「真金吹く」吉備の国 「和鉄」と「鬼」

長くなりましたが、吉備の国の「和鉄」とのかかわりをまとめました。

弥生時代から古代 大陸・朝鮮半島術から北九州・瀬戸内を経て大和へ続く道は「文化・技術交流の道」「渡来人の道」そして大陸からの製鉄技術伝来の「Iron Road 和鉄の道」。

その中央にどっしりと構えた吉備の国は「真金吹く 吉備の中山」とうたわれた吉備は製鉄の国。この製鉄技術の支配権をめぐる争いが吉備の国に残る「桃太郎の鬼退治」ではないか・・・・・・・・



鬼ノ城から眼下に広がる古代吉備の国を遠望
眼下総社市の平野の向こうにきびの中山から
古代造山古墳ほか数々の遺跡そして四国の山並が眺望

吉備の国の中心 総社市街の平野を見下ろす丘陵地にそびえる古代の山城「鬼ノ城」。桃太郎伝説の鬼の城。吉備の国を直接に見下ろす鬼ノ城。どうみたって大王国の首長の城。 ここでも 「鬼は悪者か……」の疑問がふつふつと沸いてくる。



● country walk

Aging 珈琲の東京虎ノ門「コクテル」堂

東京にも老舗のおいしい有名な珈琲店があると聞き、たまたま1月の雑誌にその店が載っていたので行ってきました。

「珈琲は豆・焙煎・挽きそして入れるのも新鮮なのが一番」と聞きますが、コクテル堂の珈琲は豆を900日もAging。

Aging でコクとまろやかさを引き出すとか・・・店の雰囲気だったのかも知れませんが 美味しい珈琲でした。久しぶりに「Aging」の言葉を聞きました。

神奈川・東京・山梨の県境の富士見台 冬の陣馬山ハイク



2002. 2. 3. 思い立って神奈川・東京・山梨の国境にある陣馬山から小仏峠まで残雪の中の尾根道をハイキングに出掛けた。一人神戸から出てきて藤野町で小学校の先生している姪を訪ねがてらにW VのN氏が言っていた富士山見ればのハイキング。

藤野町から和田峠へののどかな川沿いのみちを歩き、沢井の集落の陣馬山登山口から一の尾尾根を登る。先に二人登っていった後 人影は無し。展望の利かない杉林の尾根道 残雪をふみしめながらの約 1.5 時間で陣馬山頂上へ。

霞がかかっているが笠雲をかぶった富士山が正面に雄大な姿で迫り東から西へ 丹沢山・富士山・三つ峠・大菩薩・金峰山・御前山・大塔山と素晴らしい展望が楽しめました。ここをホームグラウンドに山歩きをしているN氏の情報GOODでした。



陣馬山からの眺望 2002. 2. 3

最も山頂の茶店で「ビール」といったら「ビンビールとつまみの皿」が出てきたのにはビックリ。缶ビールを飲んでる人達の中で一人ビンビールをはずかしげに飲みました。

人のいない尾根道を静かなハイキングを小仏峠迄。旧甲州街道の小仏峠には名前の由来となった小さな地藏さんがありました。

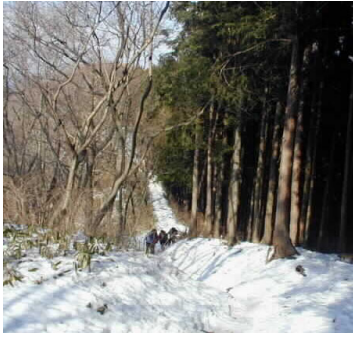
当時喘ぎ喘ぎ登り詰めたこの峠に閑所があったという。今は静かな山の中。

ここから旧甲州街道の山道を下って相模湖へ急な下り道が下まで続く。

今は 見あげる小仏峠の下の方腹を中央自動車道と中央線がトンネルで通過している。

甲州・武蔵国境の壁となって、陣馬山から小仏峠を通過して高尾山の尾根筋を直角に山越へするの小仏峠の大変さを今更ながら実感。

でも 帰って聞くと この高尾・小仏峠・陣馬山の尾根筋を走る山岳マラソンがあるという。そういえば 一人雪の尾根道を走っている人に出会いましたが、その練習かも。行き違った時にはこんな雪道走らんでもいいのに・・・物好きなのと思いました・・・



陣場山から小仏峠・高尾山への
縦走路 2002. 2. 3.



旧甲州街道 小仏峠



美女谷出口から小仏峠を望む
中央自動車道・中央線トンネル

27. 2002 年 4 月 From M. Nakanishi 2002. 4. 7.



神戸・須磨 須磨寺で 3. 30.



京都 銀閣寺疎水で 3. 23.

4 月 1 日 イースター 「イースターの早い年は春が早い」と言われるそうですが、東京ではもう桜も散って本当に猛スピードで春。

「キリストの受難」そして「キリストの復活」を祝うキリスト者 にとっては一番大事なイースター。

『キリストは自分の敵を作らなかった故 十字架にかかったのではなかったか・・・
そして 神に身をゆだねたうえの復活。

「敵・味方」の考えからの脱却が今一番問い掛けられている重要な時

このイエスに自分たちそれぞれの生き方を重ねよう。 』

と神戸聖ヨハネ教会 角瀬司祭のイースターメッセージ。

沙漠の中で生まれたキリスト教・イスラム教など一神教は「二者択一の厳しさ」が在るのに対して森で生まれた日本の多神教の宗教の持つ「おおらかさ あいまいさ」が対比して語られる。

今「国際化・グローバル化」が叫ばれる中 その名のもとに非常に厳しい「二者択一の選択」を要求され、もう解がまったく見えない泥沼のテロ戦争。その根底の中に「キリスト教」の影を見る人は多い。でも キリスト教の中に何時も「神とともにいまして」の考えがあり、「主の平和」いつもを言葉にするのも事実。 ふっと イースターメッセージを聞きながら これを思い出していました。

4 月 1 日 また多くの人が新しいスタートを切ったと風の便り。

まだ考えが一つにならず悩んでいる人も多し。自分の思い通りにならぬ昨今。

イースターがもたらした早い春。このスピードが今ある閉塞感を早く取り除いてほしいと願わずにはいられない。

自ら進んで受難へ進んでいったキリスト。

行動なくしては 何も変わらぬのも事実。「智恵」をさずかりながら前向いて進まねば・・・

2002. 4. 1. 神戸から東京へ帰る新幹線で Mutsu

● 春爛漫 三春の桜



東北 三春 満開の「滝桜」2002. 4. 6.

このメールを書いている時にも春は猛スピード。
柏は桜が散ってもうチューリップが満開。
この土日にはあけぼの山の公園には多くの人出。

インターネットで東北一のしだれ桜 樹齢千年
を越える福島県三春の「滝桜」が五分咲きとの
報に出掛けましたが、もう満開。
そのどっしりとした迫力に圧倒されました。桜
を取り囲んで座れるようになっているのですが、
私もそうですが、そこに座ってじっと見とれて
いました。

そのまま 会津磐梯山へと思ったのですが、まだ雪の中。

軽装では無理なので、雪の裏磐梯「五色沼」を約 35 年ぶりに歩いてきました。



雪の中の磐梯山 五色沼



柏 あけぼの山 満開のチューリップ 2002. 3. 6.

● 和鉄のルーツと伽耶の鉄



3月13日 千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で開催された国際シンポ「加耶の鉄」参加聴講。古代日本誕生の揺籃期に重要な影響を与えた朝鮮半島の加耶の鉄。断片的にしか知らなかった「古代日本への鉄伝来 大陸・朝鮮半島から日本への和鉄の道 Iron Road」について系統的に勉強できました。

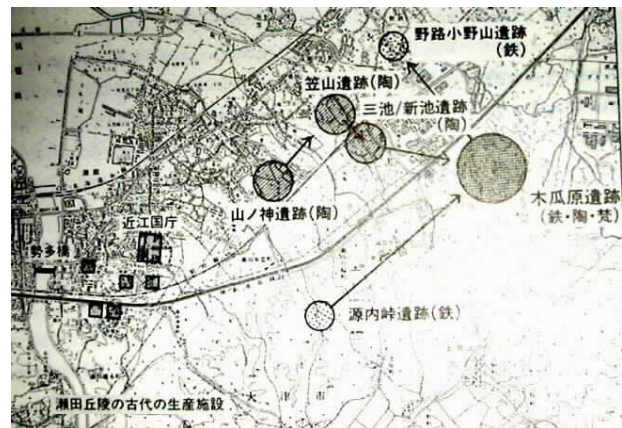
でも あの広い国立民族博物館のホールが朝早くから満員で「和鉄の伝来と日本誕生の謎」に多くの人たちか興味があるのに驚き。

● 近江の和鉄

3月23日 長年 手をつけなかった近江国琵琶湖南岸の製鉄遺跡の重要性と遺跡の話を聞いて、3月22日 京都の義母を見舞ったついでに瀬田丘陵の製鉄遺跡を訪ねました。

滋賀に進出した龍谷大理工や立命館大理工（草津キャンパス）の建ち並ぶそこがまさしく6.7世紀 大和朝廷の律令国家確立を支えた製鉄遺跡古代近江国の大製鉄コンビナートである事知ってビックリ。また 草津野路小野山製鉄遺跡は今国道1号線の大動脈京滋バイパスの真下に埋まっています。

また この近江の製鉄遺跡をインターネットで調べ依頼のメールを送った先がもう亡くなった京都の義父の親しい友人のお孫さん。本当に「不思議な縁」にびっくりです。



● 京都 大文字山・銀閣寺界隈



3月24日 思い立ってむかし学生時代住んだ北白川・銀閣寺界隈を walk 本当に久しぶりに大文字山に登り、鹿ヶ谷へ降りて真如堂から吉田山へ。歩き出すと不思議なもので次々と不思議なぐらい住んでいた当時の事が思い浮かび、つつい路地へはいたり、思いつくまま歩いてきました。

誰もみんな こんな気分で歩く街があるのだろうかあ・・・と。

僕にとっては この京都銀閣寺界隈 成人するまで過ごし住み慣れた尼崎 山口県美祢の街 そしてマレーシア ペナン島ジョージタウン

呼ばれればいつでも飛んで行きたい街です。

28. 002 年 5 月 From M. Nakanishi 2002. 5. 3.

春 まっただなか 猛烈なスピードで春が進んでいます



桜の須磨寺 3. 30.



三春『滝桜』 4. 6. 柏



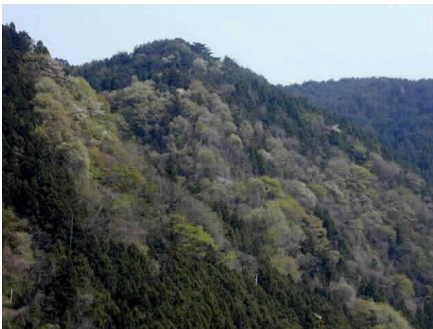
あけぼの山 4. 7.



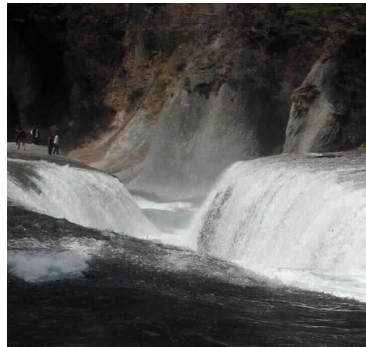
草津温泉 湯畑 4. 13



草津白根山 4. 14.



足尾渡良瀬溪谷 4. 14.



片品溪谷 吹割の滝 4. 14.



信州 佐久町 4. 27.

風薫る5月。 今年は桜をはじめ、猛烈な勢いで春が進行し、あっというまに若葉の季節になりました。世の中は『スピード時代』 『グローバル化並び高齢化社会への変革・混乱の時代』 真っ只中ですが、季節までハイスピード。

このまま行くと四季の感覚もうすれがち。

スピードで得られる良さもありますが、失われるものも多いと思います。

インターネットで配信されてきた記事の中に『スピードの時代であるからこそスタートから今までの1日にして、物事を考えてみよう』との記事がありました。 同感です。

4 月になって 色んなところから聞く話は厳しいばかり。また ハッピーリタイアメントとは言いがたい世相 仲間が次々と第一線を退いて新しいスタートを切ったと聞きました。

また、例年にも増して多くの人が 厳しい選択の中で新しい門出ハッピーになるよう頑張られるよう願っています。

私も人の事言っていられない年になりました。 否応無しにやってくる『引き際』。流れにまかそうと思っていますが、本当に淡々と定年を迎えられるか・・・・

『今年 大学へ入って 40 年。一つの区切りだから仲間集まって祝いやろう』との誘いあり。

考えてみると 子供時代から 青年・大人の世界へ 新しい世界への第一歩がこの時か

材料屋としてスタートをきり、仕事でも今まで続けてきた材料エンジニアの世界

また 良きにつけ 悪きにつけ 一献傾け愚痴を言い合ってきた多くの仲間たちを沢山得たのもこの時から 40 年の歲月 今振り返ると まだまだ 色々ありますが 本当に長くも在り 短くも在り

そして 私の会社も 7 月には会社統合をスタートさせ、新しい経営陣で動き出す。

自分にとってもエンジニアの第一線から退いて 新しい出発を間近にひかえている。

こんな事考えていると本当に歳いったなあ・・・・と思う。

でも 新しいスタートは若返りの第一歩でもあると考える事にしたい。

2002. 4. 27. 柏にて Mutsu

インターネット配信

今日の雑学 2002. 4. 17. 『はじまりのころ』 より

1 日にすれば、という考え方をときどきする。

ぼくたちの遠い祖先が日本にやってきて縄文時代が始まった約 1 万 2000 年前を午前零時とし、現在を 1 日の終わりとする。1 万年弱続いた縄文時代は、午後 7 時半までを占める。

弥生時代が午後 8 時半まで、9 時半になって平安時代が始まり、明治維新がようやくいまから 10 分あまり前。

同じ方式で生命の歴史をあてはめると、生命誕生の午前零時から始まって、午前 9 時ごろ、光合成を行う生命が生まれる。生命が多様性を探ったカンブリア紀が午後 9 時から始まり、そこから進化はめざましくなる。恐竜が存在したのは午後 10 時半からの 1 時間くらい。ほんの 30 分前に恐竜は絶滅、人類の誕生はわずか 1 分前のこと。(途中 省略)

1 日にすれば年表をたどるとき、驚かされるのは黎明期の長さだ。

縄文時代の長さ、あるいはカンブリア紀の生命の大爆発に至るまでの長さ。ほんとうの意味でぼくたちに身近な姿が現れるのは、もう日も沈んだ午後 9 時以降なのだから。

夜遊びばかりじゃなく、はじまりのころのことを、その長い助走期間のことを、ときには振り返ってみる。

小橋昭彦氏 840

スピードに対する対応のあまり、即物的対応がもてはやされ、時間経過から見えてくる本質がなおざりになっていないだろうか

私は「製品」と「商品」を区別しているが、管理技術・即物的対応からは「製品は作り得ても商品は作れない」

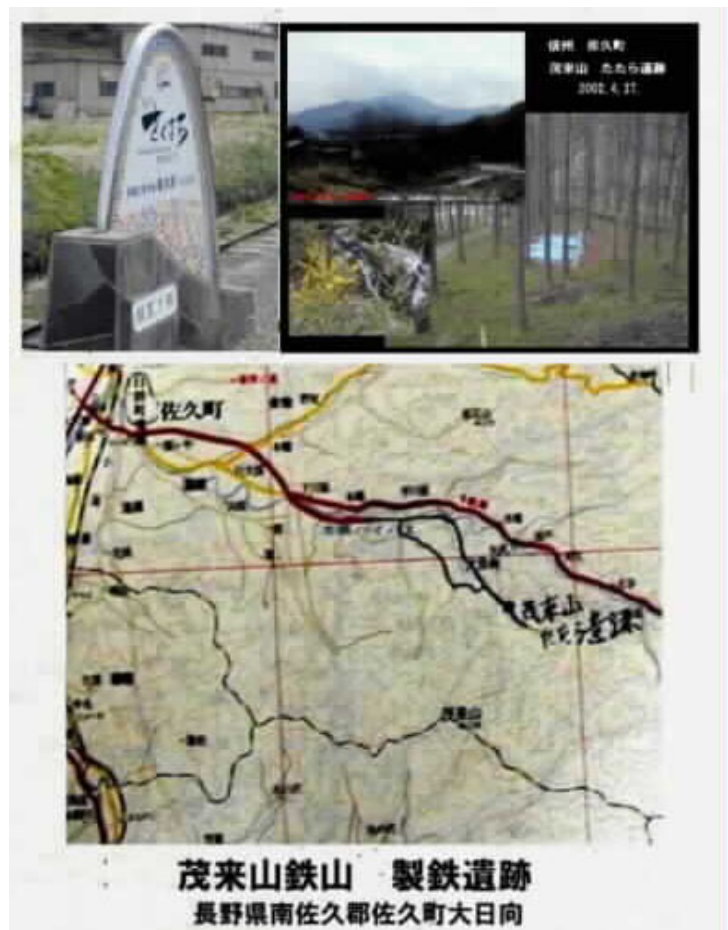
あまりにも「今」「管理」術に捕らわれがちな時代 全体を通してまた 始りの志をよく考える事が非常に大事と・・・・。

● 信州 佐久町 茂来山麓の「茂来山たたら」遺跡

信州「佐久」で江戸末期の「たたら」遺跡「佐久町 茂来山鉄山」が調査されたと聞き、鉄鉱石の出る現地でそのまま鉄山が経営された貴重な遺跡との話に興味津々。信州のたたら遺跡も見たことなく兎に角いってみようと 4.27. 信州 佐久へ。長野新幹線ができ、信州が近くなった事実感。久しぶりに春の信州の山の中に入りました。「花と高原のまち 佐久町」 小海線を真中に右手には蓼科・八ヶ岳が壮なり、左手には秩父の峯々がみえる。もう 芽吹きも終わり、里のあぜ道には黄色いタンポポが咲き乱れ、山には「山吹」と「若葉」が山を覆い、水しぶきをあげる清流とともに春から初夏への準備をもうしていました。

信州 佐久町 2002. 4. 27.

小海線にも久しぶりに乗って
佐久から清里へ



以前銚子で世話になった清里の聖アンデレ教会の武藤司祭を訪ねポール ラッシュ記念館にも案内してもらいました。

戦後まもなく 立教で教鞭をとり、清里開拓と共に聖ロカ国際病院の再建 そして 野球・アメリカンフットボールの普及にとキリスト教主義の中でアメリカの支援組織をつくりこれら数々の業績をあげたポール ラッシュ。

先人の素晴らしい働きとその偉大さと共に「崇高な本物をみせよ。それも他の人が真似が出来る」の言葉に頭をゴツンと・・・。

信州 この八ヶ岳周辺では先進的地域医療を成し遂げた佐久の佐久病院や茅野の諏訪中央病院など日本の地域開拓を成し遂げた先人たちもいる。

静かな林の中に建つ清里聖アンデレ教会の畳敷きの礼拝堂にもすわり、しばし黙想の時も。

清里も落ち着いた高原にかわり「今度は山に登ろう」と約束し 高原の新鮮な空気を胸いっぱい詰めて気分を新たにしました。

また この佐久のたたらや清里の話 ゆっくり まとめます。

山の残雪が消え、桜が桃にかわり、もう若葉の季節。 スピードを逆手にとりたいものです・・・。

2002. 4. 27. 中央線車窓から なかれ飛ぶ山々を眺めながら

● country walk

源平の昔の「青葉の笛」と門前に「卯の花」を訪ねる

神戸 桜満開の「須磨寺」

3月30日「神明道路に沿って須磨寺の駐車場があり、そこを降りればそのまま須磨寺の境内・門前へ行ける」と家内が聞いてきた。

「雑誌アエラに門前の「しらはますし」の太巻き「花巻」寿司が名物として載ってるよ。

卯の花はなくなったのかな・・・」「須磨寺の桜」も今日あたりは満開に違いないと暖かい日差しの中、土曜日の昼 家内と二人 食い気半分で須磨寺へ出掛けました。

地震と共にすっかり忘れていたこの須磨寺界限。付近は時々通るのだがほとんど足を踏み入れた事のない街。

須磨寺は源平の戦いの一の谷の直ぐそばの山裾にあり、桜が非常に美しい寺。小学唱歌「青葉の笛」の歌碑があり、一弦琴でも有名。「お大師さん」の時には 沢山の人出になるが、それ以外は静かな林の中の寺でした。

須磨寺の門前付近は阪神大震災で壊滅的な被災を受けた場所でしたが、明るい門前の商店街に変わり、お大師さんの日ではなかったのですが、多くの観光の人達で華やいだ街になっていました。

須磨寺もよく整備されたオープンな寺に変わっていましたが、桜桜満の境内の一角にある「青葉の笛」の歌碑のまわりに中年のおばさんが 群がり、歌碑の音楽にあわせて「青葉の笛」をみんな口ずさんでいました。

私も何とはなしに歌詞みなくても歌えるのにビックリ。家内と二人口ずさんでいました。



須磨寺名物「卯の花」鮓 2002. 3. 30.



桜の須磨寺

肝心の須磨寺名物「卯の花」鮓。

しめ鯖の切り身をのせた握りの鯖の上に炒って黄色くなったオカラを振りかけた鮓なのですが、味が絶品 震災で絶えてしまったか・・・と思っていましたが、門前に店を並べる街に須磨寺名物「卯の花」の札がひらめいていました。 久しぶりの「卯の花」に家内と二人 満足 満足。

あまりにも震災の強烈な印象で足をよう向けなかった「須磨寺」界限。

明るい街への活動がはじまり、お奨めのスポットに変わってしまいました。神戸須磨のお奨めです。

● 福島県 三春 の 天然記念物『滝桜』



4. 6. 例年より早く 猛スピードで桜が開花。桜の名所は沢山あるが、『一本の桜が華やかに大きく手を拡咲き誇っている姿』

今年は是非この桜の大木が大きく大地に根を張り、いまが盛りに咲いている姿を見に行きたいと。

福島県 三春町の天然記念物『滝桜』どんな雑誌にも名木として名高い桜。是非見たいと 早朝の東北新幹線に飛び乗り福島県郡山から少し山間へ入った町「三春」へ。

本当にすごい桜でした。丘の緩やかな斜面に満開の花をつけもう眼一杯拡げた枝垂れ桜の巨木一本。丘を登って反対の斜面が見えてそこにこの桜の巨木を見たときには本当に声も出ず。そのボリューム感というか どっしりとした落ち着きと気品と言うか もう圧倒されて声も出ず。

「桜の苗が大きく育つ頃ぼくらはみんな大人になるんだ・・・」なんてかわかりませんがこの歌がふっと浮かび 口ずさんでいました。

もう題名も忘れたのですが、TV ドラマで毎回「学園を出て大きく育った子供が学園を訪ね 先生とこの桜の下で再会してドラマがスタートする・・・」そんなドラマ。

毎回ドラマの終わりに「大きな桜の木が満開の花を枝一杯につけ、花びらが舞いこの歌と一緒にながれるのですが・・・」不思議にこのシーンをずっと思い出していました。

この桜のこと感激して話をした事もあって 沢山の人からメールあり。

私の先輩からは桜のある『三春ダム』かつてペンストックや水門で走り回った時のモニュメントダムだと思い出をつづったメール在り。

かつて ペンストックで走りまわった時代を懐かしく思い出していました。

また、「三春」とは「梅・桜・桃」が同時に咲く事から来た地名だと・・・。そして この「滝桜」は敬愛と親しみをこめて日本全国どこでも「お滝さん」で通じるとの事

桜については この三春の桜に限らず、誰も沢山の思い出を持っているのだとつくづく感じています。

● 福島県 裏磐梯 残雪の五色沼 アルバム



会津磐梯山 磐越西線 猪苗代近傍車窓より

4. 6. 福島県三春町の『滝桜』を見物した午後 雪の裏磐梯五色沼へ。 柏のOさん夫妻が毎年春裏磐梯五色沼へ出掛け撮られた素晴らしい写真を思い出して汽車に飛び乗った。車窓から眺める磐梯山にはまだべったりと雪がついて美しい。

猪苗代湖越しに磐梯山を見た風景が良く写真にあるが、見たこと 無し。

今回やっと見れました。

裏磐梯への道路はすっかり除雪されているが、まだ回りは残雪が多く冬景色。

三十数年前の晩秋 真っ赤な紅葉と小雨に煙る五色沼を家内とふたり震えながらめぐりましたが、それ以来。

夕闇せまる雪道を踏みしめて林の中に分け入ると 次々現れる五色沼の神秘的な沼の色は健在。

人っ子一人いない静けさの中の沼めぐり。白銀の磐梯山が夕闇の中薄っすらと赤く染まってこれもまた印象的。 今度は是非 磐梯に登って帰ろうと思っている。



残雪の裏磐梯 五色沼で

2002. 4. 6.

● country walk のんびりと春を楽しむ風来坊

ー 草津温泉・草津白根から日本ロマンチック街道を吹割の滝・渡良瀬溪谷へ ー

4. 13. 14. 春物への衣替と掃除に家内が柏へ来てくれた。

「前から一度行こうと言っていた草津温泉へ行って 今年は春が早いので あわよくば草津白根に登って沼田街道を金精峠へ」

柏でレンタカー借りる智恵もついたし、家内は「草津温泉へ行こう」で goo.

二人とも関東はどこも知らないのです、どこへ行っても珍しい。二人だと何時も「食い気と花と山が見え

ればそれで ok 」 風来坊である。

「草津温泉よいとこ 一度はおいで」ではないが やっぱすごい 関西人にはまったく知らない所ですが、いく価値ありと思います。



草津温泉 湯畑 4. 13



草津白根山 4. 14.

街の中心の湯畑 そして 泉質の異なる河原の湯・大滝の湯の二つの露天風呂。そして頭の上には白銀の草津白根連峰 1日ふらふら歩いていても退屈しない温泉街である。神戸でいうと有馬・城崎に近い古い温泉街の家並 湯畑は湯村温泉の泉源か・・・・

でもスケールは文句なく草津 そして なんと行っても白根の山並がどこからでも見えるのがいい。

草津白根は雪でまだ上まで行けず。草津白根へのロープウエーがある殺生河原でストップ。

でも 朝もやの中 べっとりと雪のついた草津白根が正面に堂々とそびえ 東には 苗場から谷川の上越の山々 そして武尊山から奥日光・赤城山 が連なり、南には 榛名山・妙義山 秩父から上信国境の山々が一大パノラマを見せてくれ、人っ子一人いない白根殺生河原からの展望は最高でした。

また、残雪の白根に対峙して南に真っ白な裾野を広げた浅間山の勇壮な姿も印象的でした。

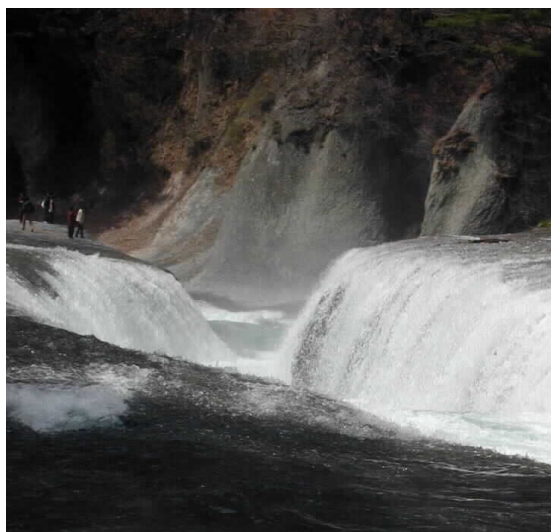
でも本当は白根に登りたかったのですが・・・・

● 足尾・渡良瀬溪谷 富弘美術館

14日 早朝に草津温泉から山間の道を東へたどる。どこもこのあたりは桜が満開。

六合村 暮坂峠を越えて沼田へ。沼田街道を奥日光・尾瀬への道を取り、片品溪谷の「吹割の滝」へ行って 赤城山山麓を抜けて再度渡良瀬溪谷を足尾・富弘美術館に行く事にした。

車でないと中々行けない場所です。



片品溪谷 吹割の滝 4. 14.

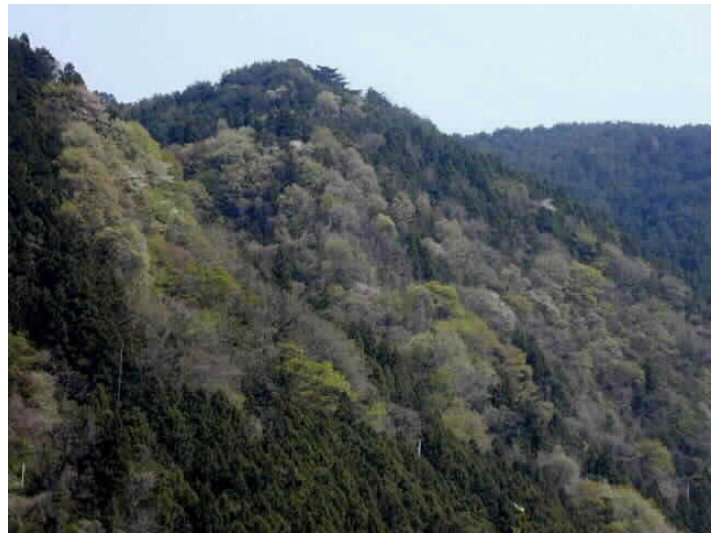
「吹割の滝」は「日本のナイヤガラ」の名前に引かれ 是非行ってみたいところ。富弘美術館も一度いきたいと思いつながら行けなかった場所でした。

吹割の滝から先金精峠は雪でまだ通行止め。沼田の方へ少し引き返し、赤城山 皇海山の間 赤城山の山腹を突ききって大間々へ出て、足尾・渡良瀬溪谷に入り、溪谷の途中東村の富弘美術館へ行く事にする。

丁度同じ時期 赤城山へ登ったが全くの残雪の中、火口湖も

完全に凍結していた。今年は春 が早いと言いながら群馬の山はちょっと高くなるとまだ雪がべったりである。でも赤城の外輪山の縁を南に大間々へ下って行くと山は冬の装いから芽吹き of 春の装いに変わって行く。

渡良瀬溪谷に入ると本当に春の芽吹き of 山が淡い緑を呈し、本当に見違えるよう。素晴らしい芽吹き of 春。渡良瀬溪谷には 足尾鉍毒・田中正造渡良瀬遊水池の暗いイメージがあり、中々足を向けられなかったところ。



足尾渡良瀬溪谷 4. 14.

渡良瀬溪谷に入ってビックリ 時期が山の樹々が芽吹きで華やいだ美しさを呈していた性もあるが、本当に明るい開けた谷である。

この山間の溪谷の木々を眺めながら約 30 分。足尾の山をバックに湖のほとりに富弘美術館があった。

● Iron Road 和鉄の道

第 5 回 暦博国際シンポジウム

「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して

2002. 3. 13.

『加耶の鉄と倭国』



日本の古代製鉄のルーツは大陸・朝鮮にあることが定説になっており、大陸・朝鮮半島から海を渡って日本へと続く「古代の Iron Road 和鉄の道」。其の中で重要な役割を演じた「加耶の鉄」この鉄の覇権をめぐる展開されたドラマが日本誕生に深く結びついている」と言われ、弥生時代から古墳時代そして大和朝廷の時代へと紀元 2～7 世紀の古代和鉄を探ってゆくと常に行き着く「朝鮮半島加耶の鉄」。

鉄の自給で大和朝廷を支えた近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群

－野路小野山遺跡・木瓜原遺跡ほか－ 2002. 3. 23.



7 世紀後半は朝鮮半島白村江での敗戦・百済の滅亡・新羅の朝鮮半島統一と朝鮮半島との関係で国際緊張が高まり、朝鮮半島からの交易も思うに任せず、大和朝廷にとってこの南郷・瀬田丘陵での鉄生産・自給が極めて重要な時であったと考えられ、その後この瀬田丘陵で次々と大規模な官営と見られる製鉄基地が営まれ、律令国家形成のバックボーンとして機能する。

行ってみれば 今は龍谷大 立命館大の理工が建ち並ぶテクノセンター。ここならば以前から何度も通った所。ここに古代の大製鉄所があったとは・・・・・・

29. 2002 年 6 月 from M. Nakanishi 2002. 6. 1.



新緑の 6 月 あちこちから山開きの便りが聞かれ、山も残雪からお花畑に花が咲き誇る初夏の季節に衣替え。年々季節感が遠のいて これも老化のせいでしょうか・・・・・・

6 月の第一週といえば 京都では平安神宮の薪能かがり火に照らし出されて舞う能と暗闇の中に響きわたる澄んだ鼓と笛の音。もう随分いかないですね・・・・

また、九州九重の全山を桃色に染めるミヤマキリシマ 今年はどうでしょうか・・・・美祢の蛸も飛び交っている事でしょうね。

梅雨時ですが 野山が一番美しい時です。

もう 関東にいるのもあとわずか まだまだ 行きたいところ多し 頑張って 出掛けようと思っています。

また、今年も 6 月 top 仲間の訃報。コンピューター革命の真っ最中 サンタクララと一緒に mpu package に夢をかけた Lee White 氏逝く。

ユーザーでの開発プレゼン・ディスカッションで司会やオープニング メッセージ等随分助けてもらったアメリカの仲間。

本当にいつも物静かで冷静で 日本から行く仲間をいつもサポートしてくれて・・・・・・
かねてより 病氣と戦っておられると聞いていましたが、・・・・・スタンフォード MIT UCLA アメリ
カの先端医療をもってしてもだめだったと

『海をもう一度見たい』とアメリカ西海岸へ出掛け、満足して帰られ その夜そのまま永眠されたと。
本当に静かで 落着いた人だっただけに余計に壮烈な死に映る本当に悔しく残念である。
病氣との戦いご苦労様 今はただただ安らかにお眠りくださいと・・・・・・祈るのみ
残された我々 彼の分も必死に生きねば・・・・・・

リタイヤに思い巡らして

私の仲間も自分を含め、今年か来年に 60 歳の定年を迎え、どうする どうするのメールが交わされてい
ます。今年は区切りの歳として大学時代の金属の仲間 山の仲間から それぞれ 集まろう の声がか
かっています。

「みんな 変わったやろな・・・・が半分 みんな 学生時代とおんなじや・・・・が半分」
色々思い巡らしながら楽しみにしています。

冒頭の写真は 94 歳になる京都の母とふたつになる孫の会話です。
どっちも 元気一杯 「そのエネルギーほんとうに貰いたい」と何時も思います。まだまだ 家に閉じ
こもる歳でなし

定年後どうするの・・・・。 今我々世代の最大課題。厳しい持代です。
また、引き続きお世話になりますがよく

私のホームページ 「和鉄の道 たたら探訪」 も WALKING のこだわり みたいなもので 現場に立つ
事だけを目的に現地に行き、書きためてきましたが、まとめると 300 頁を超えました。
コツコツやると その瞬間は大した事なくてもなんかついてると我ながら感心しています。
もう 区切りにしようと考えていますが・・・・
さて 次のテーマとなると もう 気ままに 風来坊です。
山口県美祢市 豊田前のテクノパーク 刑務所誘致の運動が進んでいるとか 新聞で知りました。
ビックリですが、新しい流れが出来れば それも由。

信州茅野の諏訪中央病院の鎌田氏著『がんばらない』
信州佐久へ行くといったら 家内が貸してくれた本
信州で戦後の地域医療の先端にたった諏訪中央病院。その地域の人達とのかかわり方が生き活きと記さ
れている筋の通った本。
ちょうど浅田次郎氏の「天国への 100 マイル」を読んだ時感じたのと同じ感じ。涙もろくなりました。
鎌田氏流にいう「『がんばらない』で生き活き生きる。」
最近なんか そんな心境です。
色んな事がおこるこのご時勢 体調に留意されますよう。 また メールください。

2002. 5. 31. 夜 神戸への 闇を走る新幹線の中で

逝った Lee 氏に思いをはせ とりとめもなく 色々な事 頭にうかぶままに

Mutsu

● home page 更新

今回 ホームページに連休に出掛けた信州と山口県美祢・秋吉の WALKING をまとめました。

1. 信州佐久ピラミッド型の美しい姿を見せる茂来山山麓

幕末のたたら遺跡「茂来山鉄山遺跡」

4月27日 信州の佐久の山中に「現地鉄鉱石を原料とした たたら遺跡」があるとの記事を見て 早速信州の佐久へ行ってきました。

春の佐久平 霞で山はきれいには見えませんでした、ピラミッド型の美しい姿を見せる茂来山を背景に田圃の畦にたんぽぽが咲き、鳥のさえずりとせせらぎの音 まだまだ残る田舎の風景。そんな山間の街道筋の奥 美しい杉林と溪谷に守られて茂来山鉄山遺跡がありました。

東京から信州まで 新幹線使うと本当に近い事を実感。 田舎を実感した佐久の春でした。



幕末 信州 佐久 武州街道沿いに栄えた「たたら製鉄」遺跡

「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk 長野県 南佐久郡 佐久町

2. 昨年 9 月以来の山口県美祢でのリフレッシュ

もう もう 美祢の家も気分リフレッシュのかけがえのない別荘になりました。

5月3, 4, 5日 ゴールデンウィーク あいにくの雨交じりの天気でしたが、山口県美祢へ草抜き兼ねて掛けました。お向かいの黒田さん一家と歓談したり、ゆったりと来福台ですごしました。

雨上がりの5日には 久しぶりに秋吉台カルストロードに出掛け カルストの中 長者森から冠山まで歩きました。

帰路 美祢でお世話になった萩焼の田中先生の新しい萩焼工房を山口市の吉敷に訪ねました。

山口の美祢 本当にもう少し近ければ・・・なんですが、行くとほっとします。

「左馬の茶碗」



美祢でお世話になった萩焼の田中先生の新しい萩焼工房「葉月」を山口市の吉敷に訪ねました。

「左馬の茶碗」って ご存知ですか？

田中先生夫妻と旧交温めるとともに 先生から貴重な「萩焼工房 葉月の左馬の茶碗」をいただきました。

縁起もので 初窯のスタートに焼き 世話になった人やお客さん筋等に配るのだそうです。

馬の字や馬の絵を逆にして描いて焼くのだそうです。「うま」を反対にすると「まう」で舞の縁起担ぎから来たとか
また馬は絶対に左には倒れず、「右に出るものがない」とかが由来だそうです。

天童では将棋の駒 左馬 に彫るそうです。

右向きの馬を書くと しっぽやたてがみを描く時逆方向に絵筆を走らせねばならず 稚拙が現れるので、作陶の優劣が歴然と見えてくる。作陶家は腕をこの「左馬の茶碗」で誇るのだそうです。

技術屋のステイタスにも合い通じる話だと思っています

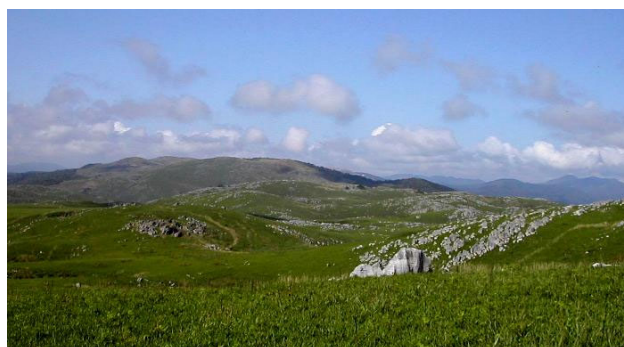


● 春 草色に輝く 秋吉台 カルスト台地 walk

雨上がりの秋吉台 カルスト ロード 久しぶりだった事もあり 素晴らしかったです。

カルストロードの長者森に車止めて カルスト台地の中を草花を見ながら冠山の頂上までハイキング。
春 こんなにきれいなカルスト台地初めてでした。

やっぱり歩かなあかん・・・と思いました。 カルストロードでは見られない新しい景色の発見でした。



春 草色に輝く 秋吉台 カルスト台地 walk 2002.5.5.



2002. 7. 20. 神戸 自宅にて

『いまわりの夏』到来
暑中お見舞い申し上げます

向日葵の 華やぐ顔に 梅雨があく
梅雨明けを 待ちかねて咲く 月下美人
孫の着る 赤いじんべいに 夏を見る
語り部の ソフトな響きに つい我をのせる

元気にお過ごしのことと存じます。

台風一過 一気に夏になると思いましたが、まだ ちょっとぐつついて・・・・・・でも今日梅雨が明けました。

梅雨時は 溶接屋にとっては一番神経使う時ですが、どうやら今年は梅雨の湿気を乗り切れたようでうまい大ジョッキーを飲めそうです。

もっとも もう 技術を見る立場から離れたのでどうちゅう事 無いのですが、やっぱり気になります。

7月 私の会社も溶接材料のトップめざして事業統合し、新体制発足。私も違った立場で側面から follow する立場に変わりました。

今までと全く異質の毎日に戸惑いの中にいますが、まあ 元気にやっています

今年 種を撒くのが遅れ、まだ成長過程ですが、我が家の角先で今年も明るい花を咲かしはじめました。

千葉から週末神戸に帰ると一番きになるのが、この向日葵なんですが、去年より、ちょっと小さいですが、パッと元気をくれる花を咲かしています。

もっとも私は『見るだけの人』で次々と庭の花が変わるのを週末帰神の楽しみにしています。

向日葵と毎年対の朝顔がちょっと今年は貧弱なんです、其の分 かぼちゃの花や夜暗闇の中月下美人が次々と大輪の花を次々と咲かせ、庭には色々とりどりの小さい野草が咲いています。今年は 春山のお花畑行けなかった分 我が家で楽しんでいます。

2002. 7. 21. 神戸にて Mutsu

● アメンボウ 飴棒 のこと

『アメンボウ』って なんでそういうか 知っていますか・・・・・・

「アメンボウ」を口にいれて噛むと「ほんのりあまいアメのあじがするから・・・・」

そんなのうそや・・・・大先生がうそ言うたらあかん・・・・・・と一瞬思いましたが、本当のよう

です。 アメンボウは臭いを発する『カメムシ』の仲間、そのグループの中では異端者、臭いではなく匂い 「飴の甘い匂い」を発するのが本当に語源
そのアメンボウも、近くに池がなくなってきた、ついぞ見かけることもなく、遠くの記憶の中に忘れ去られ もう名前すら忘れられようとしている。
でも、 そのアメンボウが忘れ去られようとしても 幾世代も生きていた痕跡を土の中にずっと残しているとしたら・・・

7月5日 「関西に縄文の火を」を合言葉に 三内丸山縄文発信の会と川西市縄文の会主催の「縄文塾」が川西市であり、出席しました。。

青森三内丸山縄文遺跡を発掘されてきた岡田氏らがこられ、こんなに数多くの古代史に興味を持つ人がいるのかとビックリ。 私の会社の先輩にも会って また ビックリ。

岡田氏といっしょに講師に立たれた昆虫学の権威 林勇一氏の冒頭の話が上のアメンボウの話。
岡田氏の話は色々TV や本に紹介されているので今日はヤメて 林勇一氏の昆虫から古代を解き明かす学問創造の話が非常に面白かったのでそれを紹介します。

林氏は三内丸山遺跡を含め、古代の遺跡に残された昆虫の残骸から古代を解き明かす日本の権威。
昆虫の羽根や外骨格は非常に酸やアルカリに強く、湿り気があれば必ずその痕跡が残ると・・・・・・。
そして 世代交代が非常に短く しかも 環境順応性の高いのが昆虫だ`と。

古代の土の中に潜む昆虫の痕跡を見つけ出し、それを解析すれば精度の良い古代の解析ができる
と・・・・・・ 昆虫が解き明かす古代史。

林氏はコツコツと古代の土の中に残された昆虫の羽根や骨格の断片を見つけ出し、それらからその昆虫を特定し、その昆虫の特性からその昆虫の生きた時代・社会・生活を明らかにした。 また 発見された断片の DNA 測定・年代測定が その時代の精度をさらにあげると・・・・

まだ この学問が生まれて 30 年にもならず。でも 断片から正確に生物を特定 大系づけるなど すごいと思いました。ぼくなんかだとすぐあきらめるでしょう。 極微小の顕微鏡世界と目に見える全体とをつなげて理解することの難しさ知っているだけに余計にビックリ。

青森三内丸山遺跡の北の谷のゴミ捨て場の土の中にある得体の知れないものが ハエのさなぎと特定。
エゾニワトコの実と一緒に沢山発見される事とこのハエが酒好きである事から 縄文時代には酒があったのでは・・・・と推定する。

これは 酒好きの果実酒のこじつけより 本当に説得力あり。

昆虫が精度の良い古代の解き明かしにこれほど重要だとは露知らず。先駆者としてコツコツと本当に日のあたる事のない解き明かしが次の時代を開く典型。まさにリサーチや物づくりの話と全く同じ。
時代や流行に流されぬしっかりした視点をもつことがあらためて大事と思い知った次第です。

講演会のあと 川西に縄文の会の人たちや三内丸山で顔なじみとなった人たちと毎度ながら酒をのみながらの交流会。

三内丸山の遺跡の集まりがオープンであるのがうれしい。

● 急逝した友のこと

また 友の急逝から書き出さねばなくなりました。

6月23日 大学で同じ金属学を学び 卒業後共に溶接・接合技術を仕事として選択した友が急逝。
大学入学 40 年 還暦を迎える友も多く 29日 久しぶりに京都で旧交を温めようとの同窓会目前の急逝でした。

卒業して会う機会も少なかつたのですが、新幹線軽量車両の開発などアルミの溶接のトップ技術屋として日本を引っ張った一人であった彼。

ちょうど 60 才にの節目を迎え、仕事から解放されるというか 仕事と縁を切って第二の人生をスタートさせねばならぬ年代の我々にとって本当に辛い。

「残念でならないが、これは「健康に留意しろ」との彼のメッセージとうけとらねば・・・・・・」と同窓の仲間が言っていたが本当にそれしか言いようのない悔しさと寂しさを覚えています。本当に残念です。

京都での同窓会 急逝した彼も入れて・・・・・・。

みんな白髪頭でしたが、何年振りか ですが、そこは もう タイムスリップ 昔に帰ってはしゃぎました。

● 箕面の滝に猿がない 2002. 7. 5. 朝



箕面の滝

動が展開されていましたが・・・・今は お猿も 少し上流の山中にいます。滝の周辺は良く整備され、新緑が美しい公園に。変われば 変わるもの。随分 苦労があったものと想像しますが、人が生態系に入って壊した環境 良く取り戻せたものだと感心。今 信州では 市街地へ出てきて ゴミ箱をあさる熊が跡を絶たないとか しっかり人の方が 考えないと・・・・・・最近 孫の話多いのですが、かわいいよ

もう 何年ぶりになるか 箕面の滝へ娘一家と行ってきました。

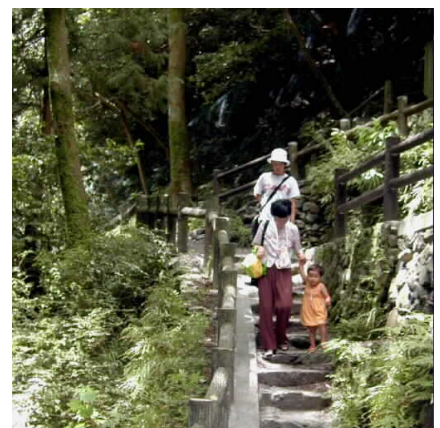
大阪や阪神間に住んでいた私たちにとっては 一度や二度は遠足やハイキングで言った事のある場所 特に 秋の紅葉は素晴らしく「紅葉のてんぶら」なんて 箕面で知りました。そしてお猿。それも暴力ザルの群れ。

それが、滝の周りにも ドライブウェイにも 全く猿が出ていない。「猿の出ない箕面なんて」といいたいぐらいの変わりよう i ビックリ。

緑の溪流に沿った静かな自然探勝路 ゆったりと新緑との流れと箕面の滝を楽しみました。

昔は 観光客の弁当やハンドバックを奪い ポケットに手を突っ込んだ 箕面名物の猿。

随分新聞にも書かれ、えさをやらぬ運



箕面の滝道で

● 久しぶりに江口氏の「語り部のかたる昔話」の会に参加 2002. 7. 20.

7月20日 吹田国立民族博物館で久しぶりに 江口久先生の「語り部の語る昔話」の会に家内と二人で出掛けました。

来年3月に国立民族博物館の2003年特別展「西アフリカ おはなし村」の開催が江口先生を中心に着々と準備されています。その一環として1年前前夜祭として企画された江口先生が語る「西アフリカのむかしばなし」の会。

毎月行われている民博ゼミナールとして開催された事もあり、「江口さんのむかしばなし」のファンも多く、民博の講堂ホールはもう一杯。

江口先生の「西アフリカ カメルーン フルベ族のむかしばなし」を聞けるのは1年ぶり。また、あの江口先生を中心としたユニークな仲間に会うのも1年ぶり 胸わくわくで出掛けました。



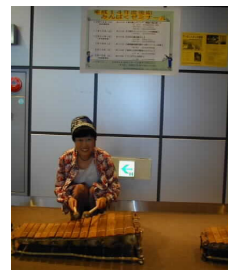
入口でアフリカ フルベの帽子をかぶらせてもらって、ホールの前のアフリカのジンベ太鼓と木琴 マリンバに興じて もう いっぱしのアフリカの仲間入りしてホールへ。 いつもながらの江口氏やスタッフの心遣い 雰囲気作り。

今日のテーマは「アフリカにある意外性のむかしばなし」と語り部の江口さんが話し出されたが、もうすっかり 引き込まれてしまいました。

この帽子 服装 舞台の演出 もうアフリカのど真ん中で聞いている気分。これも学者江口語り部の意外性。



国立民族博物館 ホール



「語り部のかたる昔話」の会の前 帽子をかぶり

マリンバとジンベ太鼓に興じ すっかりアフリカの人

江口語り部の語る西アフリカ フルベの昔話。
川辺さんとアフリカからこられたスタッフと二人
がたたき太鼓ののせて江口ブシのアフリ
カ フルベのむかしばなしが始まるともう夢中。
何時もながら話を聞きに来た人を裏切らないおも
しろさ。

その雰囲気をもみんなに伝えられないのが 残念。

「話の筋書きは同じでも 子供向けと大人向けで
はちがう。 何百年も伝えられる中で違うし、語
り部によってもまた同じ語り部でも時期によつて
も・・・・・・ これは アフリカでも日本でもおなじ。

どこが違うかという と 話の前立てと一番最後 語り部がそこを変えて作りこんでゆくと・・・・」

「『語り部がかたる昔話』とはそういうもの。 したがって そこを踏まえ 比較研究する・・・・」
と言語学者に戻った江口氏。



「語り部のかたる昔話」の会 2002. 7. 21, 吹田 国立民族博物館 講堂ホールにて

「また、アフリカの昔話には沢山の意外性が盛り込まれている。 いつも ハイエナはえさをとれずには
はらを空かしていると描かれるのにある話ではまんまと手に入れるとか それをさらに語り部がどんで
ん返しにするとか・・・・」

そういえば グリムの童話もこども向けにまた時代に合わせ作り変えているとか 聞いて 「ええ
え・・・・」と思いましたが、昔話はそういうもの そうゆう歴史の中で磨かれると考えると日本の昔
話の幾通りもの筋 各地の異伝承も それが当然で本家あらそいも陳腐にみえてくる。

「みんなでそのストーリーの初めと終わりを作って 江口語り部の話に仕上げていきたい。」と・・・・

「是非 来年の 民博特別展「西アフリカ おはなし村」をみんなで作ってゆきたい」と

来年 3月 吹田国立民族博物館で開催される「西アフリカ おはなし村」のイベントに参加してみ
ては いかがでしょうか・・・・。

実はもう この特別展に向けてのイベントが次々と始まっていて 民博中心に楽器をつくったり とう
もろこしやひょうたんの畑の種まきやアフリカの楽器の演奏法など大人や子供が参加できるワークショ
ップが次々と開催されています。

其の自由な雰囲気とイベントのおもしろさに引き込まれてしまう事うけあいです。興味のある方は 下
記インターネットへアクセスを

URL : <http://ohanashimura.minpaku.ac.jp/>

Mail : ohanashi@idc.minpaku.ac.jp

また 江口語り部の語る「西アフリカのむかしばなし」など 雰囲気伝えた私のホームページ 下記です。

民博 江口サロン URL : <http://www.ne.jp/asahi/kikuko/nakanishi/listegchiprint.htm>

息子もアメリカで元気に サンノゼへも出張したらしい。

ほんと 1年前まで 息子がサンノゼの話メールしてくるなんて 考えてもみなかったのですか・・

さあ 向日葵の夏 到来 暑さにやられぬよう

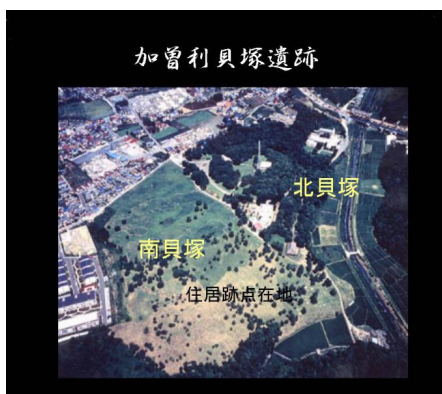
また メールください

2002. 7. 20. 神戸にて Mutsu

● 和鉄の道 Iron road

東北 縄文のストーン サークルが関東にも ???

—千葉市 加曽利縄文貝塚遺跡探訪—



NHK の深夜 人間講座か何かで 思いもかけず緑の縄文の環の中で縄文の生活について講義されている古代研究の権威故佐原真氏の姿をみた。縄文のストーンサークルとは別にこんな緑の輪があるのか・・・とビックリ。

その環が日本最大の縄文貝塚 千葉市の「加曽利貝塚遺跡」。

これは时期的にも東北縄文のストーンサークルの関東版 是非いつてみたいと強い印象をもちました。

それまで、縄文の貝塚の中に円環を持った広大なものがあるなど全く知らず。

しかも その広い緑の輪の縁に座って縄文を語る故佐原真氏の話に 青森県小牧野のストーンサークルを訪ねた時のことを重ねていました。

6. 22. 千葉の加曽利縄文貝塚公園とそこに併設された千葉市立貝塚博物館を訪ねました。

千葉の街中に、こんな林に包まれ静かな空間があるのか・・・と お奨めの場所です。



● country walk

梅雨の晴れ間に 須磨離宮公園へ -青空に水しぶきをあげる西洋庭園の大噴水と花菖蒲-

梅雨の晴れ間に 須磨離宮公園へ

6.17. うつとおしい梅雨が続く中 予想に反して 今日は曇り空ながら青空ものぞいている。

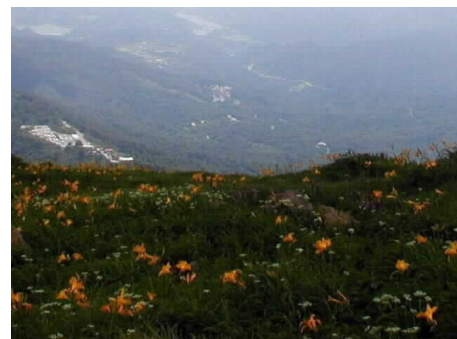
離宮道の角 離宮の入口に花菖蒲の看板が立てられていたのを思い出し、みんなで久しぶりに出掛けました。



31. 2002 年 9 月 From M. Nakanishi 2002. 9. 1.



2002 夏「ねぶた」と「ねぶた」 青森 walk 2002. 8. 3-5



花 の 月 山 walk 2002. 7. 27.

8.3-5. 家内と二人 津軽 ねぶた祭りを見に 津軽・青森・十和田に出かけました。 その熱気に圧された事もあり、お盆には 神戸で 家内と二人 のんびりと・・・でした。 山口にも行きたかったのですが、予定とれず でした。 秋には一度でかけるつもりです。

9.1. 防災の日 柏では1都5県1万人が参加した大掛かりな防災訓練が近くの柏の葉公園一体で行われ、小泉首相もヘリコプターで来柏。この防災訓練に参加。

今日は朝から 他県から参加する人を運ぶ大型のバスや緊急車両 そしてけたたましいサイレンの音など 国道16号線はごった返していました。

危険予知と緊急時の対応 関西の人は地震で相当現実的な体験に基づいた判断できるでしょうが、こちらでは ピーンときてません。

一方 TV では 東京駅周辺の地下は地下水脈があがって 池の中にういているようなものだ・・・と。ポンプとまったら どないすんねん・・・・・・地下は出口ないぞ ????? 心配すると限り無し。また、大丈夫 大丈夫と言う声も最近の色々な事件を見るとどれだけ信憑性があるのか???? 仲間のひとりは「なんといっても 健康で足腰きたえとかなあかん・・・・」と。

まだまだ 暑い日が続いていますが、すがすがしい風が吹くようになりました。

今日 東武電車で「栃木の梨」と書いた大きな化粧箱をだかえた人たちが乗り込んで来ました。

「山口では秋芳梨」 「鳥取では二十世紀」の地方送りの旗が街角にはためくと「秋」。

もうその季節になったと栃木・鹿沼の梨に秋を実感。

梨というと 柏の隣の松戸が二十世紀梨の発祥の地で鳥取で大きく広がったと・・・

松戸の郊外は今も梨の産地なのですが、二十世紀ではなく、甘味の強い「幸水」や「豊水」がほとんど。そういえば 関東ではほとんど二十世紀を見ません。 松戸の梨も美味しく 近郊の梨園ではやっぱり地方送りの旗がはためいています。

それから もう一つ 最近 国道16号線を走る巨大なトラックのタイヤの数が気になって 通るとついつい勘定しています。

最大20個 18, 16個をつけた巨大なトラックが走っているのご承知ですか・・・・。

通常 10個 12個のトラックは 何処でも 見られるのですが、18, 20個となると中々みられません。家内に教えると家内の方が先に20個の巨大トラックを見つけ、タイヤの配置を紙に残して自慢して神戸に帰りました。

このタイヤの数が景気回復のバロメーターかも????

秋晴れと梨・ぶどうの美味しい果物の季節 このすがすがしさが 世相にでてくるとよいのですが・・・・ まあ そんな事をふっと考えています。

アメリカにいる息子が友達にジョン バエスに託してくれたCDを聞きながら このメール書いてます

2002. 9. 1. 夜 柏にて Mutsu



高山植物が咲き乱れる 夏の伊吹山にもでかけました 2002. 8. 12.



姫路城のお堀端
姫路市美術館
夏の午後

2002. 8. 11



那須 塩原溪谷 と温泉

2002. 8. 31.

● country walk

花の月山 walk 山形県 出羽三山

高山植物が咲き乱れる山上の縦走路 2002. 7. 27.



7月27日 晴れ 今日を逃せばまた今年も行けぬ。高山植物満開の山形「月山」へ 花のトレッキング。是非一度は行ってみたい山上のお花畑。ずっとあこがれていた出羽三山 花の月山に行ってきました。

新幹線で山形へでて バスで月山口へ。姥が岳-月山-弥陀ヶ原-新八合目-鶴岡へ 南から北へ縦走。人が多いと聞いていたのですが、それもあまり気にならないほど本当にすばらしい花満開の縦走路でした。

晴天に恵まれ、姥が岳から月山山頂へ続く縦走路では雪渓を抱く月山の山容をバックに足元にはチングルマ・ミヤマリンドウがそしてそニッコウキスゲの群落が両側にひろがり、

白いコバイケイソウの群落がこんなにきれいとは思ってもみませんでした。ふっと岩陰を見るとウスユキソウが清楚な花をつけています。月山のお花畑は素晴らしいと聞いてはいましたが、山上の縦走路は本当に素晴らしい花の縦走路 goo でした。

また、唯一県庁の所在地に立った事のない未知の県「山形」だったのですが これで全国すべて完了。終止符が打てました。

日本海側の玄関口 鶴岡の街もイメージ的にあこがれていたのですが、中心部の川に沿って散策しながら鶴岡駅へ。明治の古い洋館建の美しいカソリック教会の建物を見て 鶴岡駅 6 時 20 分の特急に飛び乗り、日本海へ沈む夕日を見ながら新潟・東京へ。

様子も判ったし 次は出羽三山 ゆっくり時間かけて 秋にでももう一度と思っています。



● 2002 夏「ねぶた」と「ねぶた」 青森 walk 2002. 8. 3-5.



8月3,4,5日 思い立って 津軽から青森・十和田湖へ家内と二人でかけました。関東にいる間に一度みせたかった青森の「ねぶた」祭。津軽弘前・五所川原のねぶたと青森のねぶたの3ヶ所のねぶた祭を見.るのが、主目的。



青森市郊外から西へ 岩木山を背に広がる津軽平野。 岩木山麓の広大なりんご畑にはりんごが実り、「嶽キミ」という甘いトウモロコシ そして街々にはねぶたの囃子が響く。いつもながら 津軽へゆくとウキウキ。 同時期に三つの「ねぶた」を一緒に見るのは初めて。

青森のねぶたが観光化して活気がないのが気になりましたが、青森「ねぶた」のあのすごいエネルギー。弘前で見た扇形ねぶたの美しさと情緒あふれるねぶた囃子の笛の音。そし

て 津軽の人が自慢する復活した五所川原の「立佞武多」のスケール。

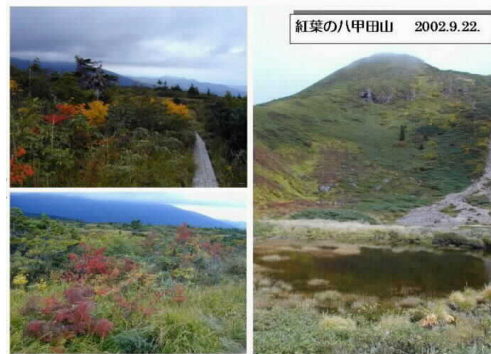
見ているだけなのですが、祭りの熱気の中にいると自分も主役のような気になって 一緒に楽しみました。

欲張った計画ですが、この三つの「ねぶた」を見て、りんご畑の広がる「津軽富士 岩木山」。三内丸山遺跡にも行って あとは 八甲田山を越えて奥入瀬・十和田へ 昔を懐かしむ旅。

旅館が取れず苦労しましたが、毎度の事 青森でレンタカー借りて 家内の運転でゆったり気の向くままの旅 津軽の夏を楽しみました。



32. 2002. 10 月 New Page From M. Nakanishi 2002. 10. 5.



三内丸山縄文遺跡 お月見コンサートと一足速い 青森八甲田山の紅葉 2002. 9. 21.

10 月 2 日夜 勢力の大きな台風が柏を猛スピードで通過して行きました。ものの 30 分程なのですが、雨と共に猛烈な風が吹き、鹿島では送電鉄塔がなぎ倒されましたが、会社の建屋が少し壊れた程度で被害特に無し。

台風一過 気持ちの良い快晴。 まあ 元気にビジネスに励んでいます。

柏の会社への通勤路界限では 常磐新線の橋脚が立ちだし、新線建設が急ピッチで進んでいます。
台風一過 素晴らしい青空とは裏腹に世相は暗雲の真っ只中。狂牛病騒動の沈静化が見えたと思ったら、
東電の原子力の欠陥隠し。そして イラク問題・北朝鮮の拉致問題。
解決の秘策がないのは判っていても、同じ世代であるだけに北朝鮮及びその対応に義憤を感じるが。
また、何か見え隠れする権力者のエコ`と都合の良い内輪の論理。

2002. 10. 3.

台風一過 快晴の柏にて Mutsu

●『中秋の名月』 今年も 三内丸山縄文遺跡で

9. 21 夜 『中秋の名月』 今年も青森三内丸山縄文遺跡でのお月見に出かけました。

毎年誘って貰って、僕は三回目。 林に囲まれた真っ暗の遺跡の広場で、お月見コンサートが始まると
八甲田の山影からまん丸のお月様が顔を出し、素晴らしいお月見会となりました。

今年から 青森三内丸山遺跡・岩手御所野遺跡・秋田大湯ストーンサークルの三つの縄文遺跡で、日替
わで縄文フォーラムとお月見コンサートが行われるオーンな会になり、今までとは打って変わって大き
な会になりました。

いつもながら オープンな会で 旧知の人 新しい人に会えるのが楽しみ。



青森 三内丸山遺跡 収穫祭 フォーラムとお月見コンサート 2002. 9. 21.

以前 新聞か TV で 津軽海峡を『いかだ』で渡る実践をしたと聞きましたが、そのグループで北海道 茅
部町の縄文遺跡のボランティア グループ。パワーあふれる人達でした。この遺跡も三内丸山に匹敵す
る遺跡で 町長さんが頭の上に写真をかざして話された縄文の子供の足型や縄文人の脳。そして 木村
県知事も加わって 津軽海峡も含め、北海道・北東北連係の話久しぶりに『goo goo』の話でスカッとし
ました。 この三内丸山遺跡のオープンな運動が次々と広がるのは本当にうれしい事です。

縄文時代本当にお月見があったのだろうか・・・暦の語源は「ヒ（日）ヨミ（読み）」『日の出と日の入』

『月の出と月の入り』があるように新月と満月 どちらがスタートなのか・・・・

「縄文のこの巨大遺跡の真中に大きな広場と そこを中心に 東西・南北に伸びる巨大な道 どう考えても 異常です。 何の為の道なのか・・・・」 「死者を親しみの中に敬い 争いのない縄文の心」を静かな口調で話される山形芸工大赤坂憲雄教授。

縄文の静かな森の中で、今の世相とダブらせながら久しぶりに聞く「縄文の心」

21 世紀は『心の時代』・『オープン化の時代』と持てはやされるのとは逆に 空ろさが目に付く空しい中 にいるような気がしてならない。

民族紛争も『憎しみが憎しみを生み、戦争が戦争を生む』事 『形だけの open 化に名を借りた秘密主義の横行』口ではダメな事みんな知っていても『それを乗り越え 踏み出す勇気・智慧』がない。それを生み出す若さがほしい。

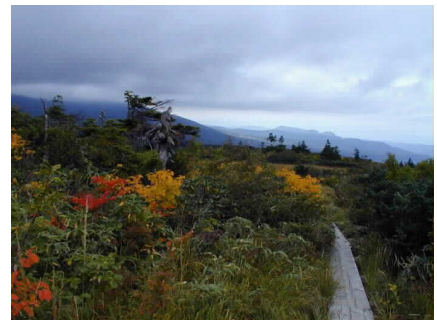
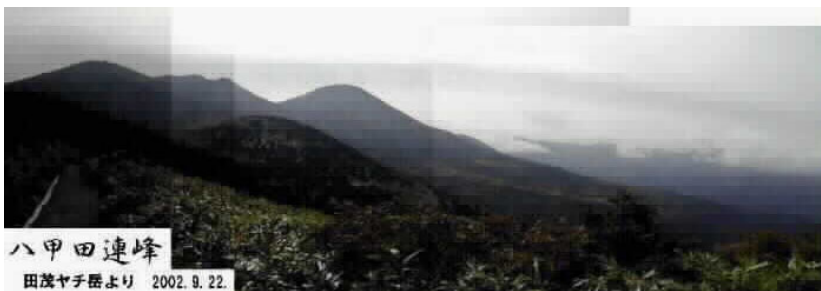
理念・洞察力の貧困さが今ほど目に付く事はない。 そんなことを感じています。

月明かりの中 縄文の森にそびえる六本柱越しに月を眺めながら 現代と縄文をだぶらせていました。

八甲田山 walk

22・23 日 引き続いて大湯や御所野遺跡でのにも行きたかったのですが、山の魅力に勝てず。

翌日 22 日はいつも眺めてばかりの八甲田大岳へ行って来ました。



紅葉には少し早かったのですが、青森榎松の青と黄色く色付き始めた八甲田の稜線を歩き、紅葉の毛無岱湿原から酸ヶ湯へ。酸ヶ湯の仙人風呂にはいつてから、十和田湖を越えて 秋田県鹿角・花輪へ。



奥羽・八幡平の山裾を流れ、日本海側能代へ流れ下る米代川の源流渓谷 湯瀬温泉で泊。この米代川流域は古くから開けた縄文の地。 下流の鷹巣町河岸段丘にあるストーンサークル伊勢堂岱遺跡をはじめ、数多くの縄文遺跡や古代「たたら」遺跡がある。湯瀬渓谷の川音を聞きながら一人湯の中で酒を飲む。

「蝦夷の鉄・餅鐵」 和鉄のもう一つの故郷 北上山地

23日は盛岡から釜石へ

北上山地 南部は「蝦夷の鉄・餅鐵」 奥出雲と並ぶもう一つの和鉄の故郷

どうしても見たい「餅鐵」。

北上山地の分水嶺から釜石への奥深い山中は鉄の山。流れ下る川筋は餅鐵の宝庫。

古代蝦夷の宝の山。そして、日本最初の洋式高炉が建てられた近代製鉄発祥の地。

釜石に高炉の火が消えたのはさびしい限りですが、念願の釜石・餅鐵にもあってきました。



「蝦夷の鉄・餅鐵」和鉄のもう一つの故郷 北上山地

欲張った行き当たりばったりの一人旅。

紅葉には少し早かったのですが、田園は黄金の稲穂。山は実りの秋。

自然の中にどっぷり。新しい空気を体いっぱい吸ってきました。

● 縄文の土器が語る「物づくりの技」とプロの眼

縄文塾 東京 小林青樹氏「縄文のコミュニケーション」の話をきいて 2002. 9. 6.

－ 縄文人と弥生渡来人の交流・コミュニケーションを解き明かした縄文土器の技 －



「伝統・物づくり技術」とは
「有形・無形 100 を越える「質」の技術の集積で
プロ・工人はそれを五感を通して体得している」
製作された物のにそれが技術として表れ、プロはそれを見抜く。
それを見抜く者のみが技術伝承者となりうる。

「物づくり技術」の荒廃と理解が叫ばれる昨今 「物づくりの技」をそんな風に思っています。

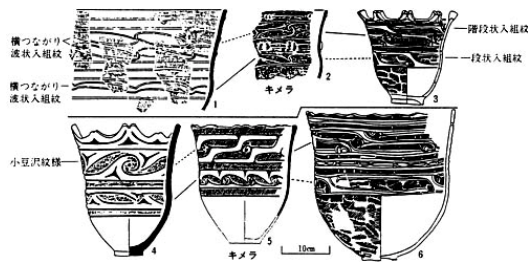
9. 6. 東京縄文塾で「縄文人のコミュニケーション」と題して小林青樹氏の話を聞いた。

縄文土器の形状・描かれた文様などをプロの眼を通して正確に見て分類してゆくことにより、文字のない縄文時代の人の交流ネットワーク・経路 さらに 社会の構造が解き明かされたという。

- 縄文晩期には 集落間には強い結びつきをもった集落交流が活発にあり、その範囲も非常に広い。
- 糸魚川産ヒスイの加工基地には東北・長野の縄文人が直接やってきて加工を行い、その技術が東国の縄文人に広がっていった。
- 弥生の時代への黎明期 縄文人が弥生の渡来人を警戒し、日本東西の交流路が一時途絶えた。
また、その後 猛烈に 新しい渡来人の文化を取り入れようと渡来の民に東国の縄文人がアタックしていた。
- はたまた、渡来の民も逆に縄文人の文化を取り入れ、融合していった等々。



亀ヶ岡遺跡から出土した縄文晩期の土器



縄文土器の複雑な文様

さっと言われると「ほんとかいな・・・見てきたよううそ???」とにわかには信じがたい。

縄文から弥生の時代への移行期 原日本人である縄文人に代わって渡来の民を中心に西から順次東へ弥生の民が勢力を広げていったのが日本人のルーツ。

「その過程では新しい渡来の民である弥生人が縄文人を戦争によって駆逐

していったのではないらしい。両者の融合によって時代が進み、日本人が形成された。」

とよく言われ、神話の世界でもやたらに融和の話が多い。

でも、その中身になると全くよく判らず、最近の DNA 調査などの証拠以外に説得力のある話を聞いたことがなかった。

ましてや、「縄文人が弥生の民にアタックし、交流してゆく様子がわかる」等 夢見たいな事と思っていましたが、小林氏の話聞いて 「う・・・ん」となっていました。

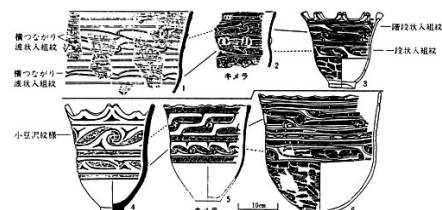
縄文晩期 紀元前1000年～紀元前100年頃 弥生時代到来夜明け前の縄文時代 日本には大きくわけると亀ヶ岡式土器を持つ東北・東国の縄文文化圏と日本磨研土器・突帯帯文土器という無文様・磨きの特徴とする西日本文化圏があり、この両文化圏の交流を含め、日本では活発な交流が行われていた事が出土する縄文土器の破片の精査から判ってきたという。

縄文晩期 東と西に広がる二大文化圏

【1. 北から長野・北陸にかけての東日本亀ヶ岡土器縄文文化圏】



亀ヶ岡遺跡から出土した縄文晩期の土器



縄文土器の複雑な文様

【2. 九州・中国・近畿に広がる西日本無文土器縄文文化圏】



黒色磨研土器の一例 大石遺跡



突帯文土器の破片 岡山大構内遺跡

「良い物をまねる」というのはいつの時代であっても同じであり、縄文時代 亀ヶ岡土器の文化圏内でもそれぞれの集団がよい土器を真似、求めて集落間の交流があったことは容易に推定がつく。でも文字のない時代 見聞きだけでその技術を忠実に真似ることが、出来ようか????

人が動き、コミュニケーション・コンタクトしてその製作をみんなに見せつつ 教えなければ 正確には 伝わらぬ。

「人が動いて コミュニケーションがなければ もの真似だけでは忠実な土器製作の伝承はなされない。土器に残された土器製作の技 そして その技の稚拙さまでも含めて精査して出土場所・時代をつないで行けば人の動き・コミュニケーション そして 社会の構造が見えてくる。そしてそれらをつないで行くと前述した縄文人集団の中のコミュニケーションや縄文人と渡来人とのコミュニケーションまでもが浮かび上がってくる」と小林青樹氏はいう。

縄文土器を代表する亀ヶ岡土器などには「縄文芸術」と呼ばれるほど複雑で繊細な縄文の文様やつけられており、これらの文様や形などを手がかりに縄文土器製作に使われた技術・実際には土器の特徴的な表情を分けると 100 数十を越える項目になり、到底見聞きによる物まねのみではまねられない。

そこには確実に人の交流があったと考えるのが自然である。

そして その特徴伝播の稚拙さによって 交流の深さがわかる。

出土した場所とその特徴一つ一つをを重ねて行けば、人がやってきて出土した場所での交流を計ることが出来、今では土器の破片からどの遺跡とつながった土器か 繋がりの深さまでもが判る。

また 作られた時代も判定がつき、青森津軽半島や八戸など東北で生まれ、縄文中期から晩期にかけて隆盛を極めた亀ヶ岡土器の文化圏がどのように西へ広がっていったか？ 等々が手にとるように判ってきたと。そして この土器の文様を手がかりに分類体系化する中で、無文の磨研土器・突帯文土器の文化圏の集落で特異的に東国の亀ヶ岡土器が混じって出土する例 時には大量に混在する例もが沢山見つかった。同じ土器分類を有する集落ネットワークを調べ、つなぐ事で交流の歴史が解き明かされ、そして 前述した渡来人と縄文人や異文化圏交流のルートなどまで色々なことも明らかになってきた。

ここまで 謎解きされると段々わかってくる。もう 夢中で話を聞いていた。

本当にあざやかな素晴らしいアプローチだと思う。

「ほんとにかいな・・・」と思っていた事が、謎解きされるとビックリするほど新鮮で・・・納得でした。「縄文土器の破片集めたって・・・」と思っていましたが、さすがその道のプロ。視点が違う。

「現物を集めて その中に秘められた特徴を探し見る。そして そのルーツを探る。」

これ、まさに技術屋 物づくりの世界と全く同じ。 技術開発 技術解析の世界の現実と同じである。兆候を見抜く眼がなければ 体系化も分類も出来ない。

それが解き明かされると「だれだって できるさ・・」の声がでてきそうであるが、先人の眼がなければ 出来ない世界。先人のプロの眼があってこそ出来る技である。

見抜ける眼と表裏一体なのが、その眼にとまった「物づくりの技」

縄文人が何千年かけて 模様や形そして材料に五感を駆使して作りこんだ技 決して物まね・見ただけでは出来なかった技である。だからこそ プロの眼でしか解き明かせなかったと思う。

縄文土器の分類にはそういった 100 を越える物づくりの技を対象に分類しているという。

現代の「物づくり」の業だってそうだろう。

簡単なまねば出来ても、実際に人が接し、その製作の過程について 人の交流なしでは伝えきれぬ人の技。物づくりの技術 名人芸と呼ばれなくてもそこに秘められた工人が持つノウハウ技術をどのようにして伝えるのか・・・。

今 「物づくり技術」を大切に の言葉をよく聞くが、この事が理解されていないのではないか。

形は伝えられてもその質は人が人と交流しない限り伝えられぬ。

これは 縄文の昔から同じであり、その伝承・人と人の交流が新しい発見を産んでゆく。

技術を持ち 現場で物づくりを実践してきた人がどんどん消えている。コンピューター万能・機械万能が今問い直されている。「質」を伝える技術の習得が今 必要となっている。

現在 無人化工場がもてはやされ、効率的な物作りの中で質へのこだわりがわすれられていないか・・・・・・。

2～3 世代も変わらなくても、機械を動かすマニュアルはあっても もはや質を見る技術はなし 物まね製品しか作れない そんな時代がもう眼前。質を見る眼は中国・韓国などアジアの若い物づくり大国にゆだねばならないのか・・・

昔 同じ立場にあった日本が今物が作れぬ逆転の危機に・・・・・・

欧米はその危機を克服したではないか・・・・・・の声もある。でも 今の日本はこの事にあまりにも楽観的過ぎる・・・・・・

欧米では 物づくりの中に流れる思想を大事にし、手段・テクニックよりも流れ・思想 いわゆる流儀を大事にする。ISO のこだわりを見るとこの点がよく判る。

急速な転換・効率化を急ぐあまりこの点が日本では抜けているのではないか・・・・・・。

現場の荒廃・形骸化 物づくり技術の重要性が叫ばれる中 その中身の理解の貧困さにはがっかりしている昨今である。

技術の伝承・新しい技術創生には この名人芸・見抜く眼が必須であり、現場でしかこの技術は生まれない。

縄文の技術・プロの物づくり技術を今プロの眼が解き明かす。 2000 年を経て・・・・・・。

鮮やか・・・と驚いてばかりはいられない。伝承が途切れた時のこの時間の長さ・・・。

以前聞いた昆虫・蛆虫のさなぎを見るプロの眼が解き明かした三内丸山遺跡集落の人の暮らし。

その時も同じ感激をあげたのですが、そんな事を思いながら小林氏の「縄文のコミュニケーションの話」を眼を輝かして聞いていました。

日本の物づくり技術 また プロの眼をどのようにして育てるのか???????

「物」を作る技術から「質」を作り 「質」を理解する技術なしに先端技術・物づくりの再生は成し遂げられぬ。

今一度 じっくり 縄文の土器を眺めてみようと思っている。

2002. 9. 6. 縄文塾 東京

小林青樹氏「縄文のコミュニケーション」の話をきいて



京都 二条城 の 紅葉

2002. 11. 4.

あっという間に 11 月。急に寒くなって 山の紅葉を観に行く間もなく、冬の足音が聞かれます。相変わらず、神戸と柏を行ったり来たりしています。

10 月には 久しぶりに山口・美祢に行き、美祢で仕事をしていた時の先輩や仲間とあったり、尼崎で高等学校卒業 40 年の同窓会に出たりで、昔話に花を咲かせてきました。

ビックリすると共に喝采した京都島津の田中耕一氏の「ノーベル化学賞」の受賞。

若い人の受賞ばかりでなく、「実学」「物づくり・解析技術」の技術開発実践の中で生まれた技術。

感覚的には日本の五万というエンジニアが実体験している代表選手といった親しみを感じています。

「物づくりの技術荒廃」が叫ばれ、何かと軽薄な「技術立国・先端技術」が語られる中「物づくりと技術」・「埋もれた既存技術の中の先端性」を考える良い機会であり、ややもすると縁の下の力持ち 解析や物づくり工学の実学にスポットが当てられたのがうれしい。

現在の産業構造の変革の時代 軽薄な物づくり論 管理・企画万能重視の効率論から脱却すべき 痛烈な批判のようにも感じています。ちょっと ひねくれているかも・・・・・・・・

でも エンジニア 自信喪失の時代 名もない多くの若いエンジニアには本当にパワーになったと思う。



かつて 一緒に技術開発に情熱を燃やした仲間から うれしい便り

もう 10 年以上になるのですが、脱サラして阪急宝塚 逆瀬川駅前にご夫妻二人で開かれた「カレーの店 『Off Road』」 長いこと会っていないなあ・・・・ 機会作って是非訪ねたいと思っています。

10 月発売のグルメ本に当店が掲載されました。今年 4 冊目です。これも皆様の応援のおかげ。

JTB 発行の新しいグルメ本『るるぶぐるたま：ABC ラジオが選んだ関西グルメ 239』になんと

当店の神戸牛のタンシチューセットが紹介されました。

カレーと同様タンシチューを作るには大変な手間暇がかかります。注文が殺到し嬉しい悲鳴をあげています。

カレー以外にも柱が一つ出来たと喜んでます。機会があったらぜひ食べに来てください。

今後ともよろしくお願いいたします。とりあえずお知らせまで。

カレーとアウトドア料理 Off Road

〒665-0035 宝塚市逆瀬川 1-11-1 アピア 2-1 F

Tel 0797-73-0010

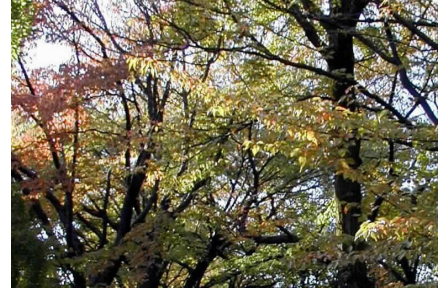
ホームページ <http://homepage1.nifty.com/offroad/>

宝塚・逆瀬川あたり 訪ねる機会あれば 是非 お訪ねください。

● 京都 二条城 国宝 二の丸御殿 2002. 11. 4.



今日は 94 才になる京都の義母を見舞いがてら 京都を訪ね、家内と二人 久しぶりに二条城の中を約1時間かけてゆっくり散策。 国宝 二の丸御殿も随分違った印象。また、紅葉した静かな林と庭の散策路。若い時に行った印象とは全く違う感覚にビックリ。そのあと 烏丸北大路のビブレの中に見つけた東京虎ノ門 aging 珈琲の「こくてーる堂」で午後のお茶。深まり行く京都の秋を



楽しみました。

人の感覚も年齢と共に変化 それを人は「老い」というかもしれないが、その変化を訪ねるのも一興。

最近 は 本当に じっくりと落ち着いて歩くのが楽しみ。

2002. 11. 4. 京都から 東京への新幹線の中で Mutsu

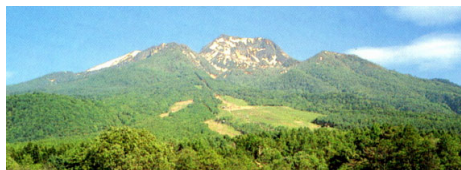
● 映画「阿弥陀堂だより」

10. 27. 日曜日 午後 柏で時間が空いたので 星野富弘さんの詩画展を観てそれから 映画 「阿弥陀堂だより」を見ました。すごく美しい映画で 気分もゆったり お奨め
映画は日本の映画独特のちょっとネチネチとしたいやし系 ぼくはどちらかというと好き。
「雨あがる」の黒沢組スタッフの製作した映画

日本の原風景 長野県飯山・妙高の山々に囲まれた山郷の四季が千曲川越しに次々と写されて その美しい風景をバックに年老いた老婆役の北林谷枝を通じて、静かに語られる「生きるの言葉」に見入っていました。

星野富弘さんの足尾・渡良瀬の野草を通じて語られる言葉といい、映画の中で、自然に囲まれて生きる人々を通じて語られる言葉といい 現代人が忙しさの中に思考をとめてしまったもの、この原作者の南木佳士氏が言う「マンネリに体をゆだねる心地よさ」なのかも知れぬ。力はありませんが 静かな中で ゆったりとした気分 こころの洗濯です。

今年はどうも山の紅葉しっかり見れずに終りそうなので、映画の中で美しい妙高の紅葉が見れたのもうっけ。 映画館もすいていて ゆったりと静かなイメージ映画みるのもいいですよ。



長野県飯山 頸城アルプス 妙高山 夏 & 冬

阿弥陀堂だより 概要

<http://www.amidado.com/>より



心の病がきっかけで、夫の孝夫（寺尾聡）と共に彼の故郷である信州の山間にある村に診療医としてやってきた美智子（樋口可南子）。そこで2人は死者がまつられた阿弥陀堂に暮らす96歳のおうめなど、町の人々との触れあいの中で、質素に生きる喜びを知り、人生について再確認するのだった…。

「外見・姿はその人の内面・心を表わす」

「質素なものばかり食べていたのが長寿につながったのなら、

貧乏なことはありがたいことです」

と語る老女うめ。

長野県飯山市を始めとした奥信濃の美しい四季を共に、そこで暮らす老女の生きざまをインタビュー形式で語らせ、阿弥陀堂だよりとして観客に伝える。

老女を演ずるのは私の好きな90才を越えた北林谷栄さん

「質素なものばかり食べていたのが長寿につながったのなら、貧乏なことはありがたいことです」と語る老女の生き生きとした顔は 今日 教会で説教を聴き・黙想した「貧しいものは幸いである」の言葉と同じではないか・・・・

信州千曲川越しに観る妙高の美しい四季の自然の美しさに載せて語られる言葉には おもわず息を呑む。実は映画見に行った時は知らなかったのですが、「阿弥陀堂だより」の著者南木 佳士さんは農民地域医療の先駆けとなった長野県臼田町佐久総合病院の内科医長さん。

学生時代に医学部の人から佐久にすごい病院があると聞いた記憶があり、「人のつながりと心を大切にする」佐久総合病院の地域医療についてはNHK「プロジェクト X」にも取り上げられた。「人を大切に」につながる人の流れ。

「佐久」と「飯山・妙高」 自然と人の暖かさが重ねられ 合い通じる「阿弥陀堂だより」の映画今春 たたらを訪ねて訪れた佐久平 佐久町の「茂来山」。

この佐久街の隣町が佐久総合病院のある臼田町。

また、佐久町の千曲川のほとりには 縄文の大集落遺跡がある。

縄文からつづく「心の暖かさ」と佐久の暖かい四季の移ろいが佐久をつくったのか・・・・

妙高の景色の中の阿弥陀堂のイメージはこの佐久にあったのか・・・と自分で勝手に納得している。

阿弥陀堂だよりの著者 南木佳士氏は「阿弥陀堂だより」を書いた時の心境について 書かれた文をインターネットでみつけた。

日帰り登山で下山するとき、急な登りであえいでいた余裕なき己の姿を鮮明に思い出すが、笑う気にはなれない。それに似た感情をあこのころの自分に対して抱く。人生の山を登りきる直前の苦しさだったのかもしれない。だから、いまは肩の力を抜いてゆっくり景色を見ながら下ってゆく心地よさを何よりも大切にしたい。
それを支えるのはマンネリを好むからだの声に逆らわずに暮らすことなのだ
と五十歳になってようやく気づいた。

ほんとうにそんな心境で「肩肘はらずに 無理せず 自然のままに 頑張らずに生き活きと……」と呪文のように唱えるのだが、中々うまく行かない日常。

「時々 こころの洗濯をして あるがままに・・・・・・
でも 少しは行動的でありたい」。

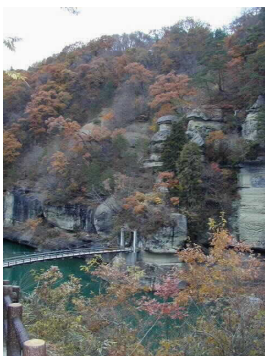
2002. 10. 27. 夜

星野富弘さんの詩画展と映画「阿弥陀堂だより」を
観たあとで Mutsu



34. 2002 年 12 月 New Page From M. Nakanishi 2002. 12. 8

関東で 晩秋と初冬が入り混じる中で



奥会津 紅葉の塔のへつり



雪の中の曲家集落 館岩村



上州 妙義山

師走 今年は寒い日が続き、街には華やかなクリスマス イルミネーションが輝いています。
でも、なんか うつろろで 全く師走・クリスマス シーズンの感じがしません。年々 感激性が薄れて行くのは歳の性でしょうか



今年のクリスマス テーマ は 「和解」 「平和」 「希望」 この夜、世界中で求められている「和解 平和 希望」の祈りを捧げます。

「どんなグループでも違った者同士の集りゆえ、その基盤は「赦しと和解」のはず。

愛ゆえに、現状を越える広がりへのチャレンジが「平和」
として、生ける泉の水として汲みつづける「希望」です。」

(2002 神戸市民クリスマスより)

街の華やかさとは裏腹に デフレ不況とリストラの波はもう 産業構造を根底から変えないと収まらぬところまで来ており、地球規模での環境問題の深刻 化 世界戦争の危機等 知らず知らずのうちに自分の身にまでそれらが及んできています。

もう 現状維持型の将来の夢など追えない時代

団塊の世代が作り上げた時代は脆くも根底から 遷り変わる運命。

技術・産業の時代から 知識・情報の時代へ 団塊の世代に 何か 智恵はないのか・・・・・・

素材産業である鉄鋼の技術屋として 40 年。 日の出の勢いで「産業の米」として日本を支えた重厚長大の素材産業の蓄積はなんだったんだろうと思う事が多いこのごろです。

国際競争 国際的分業が進み、若い起業家が起こしたビジネスが旧来の大企業を超えるビジネスに成長を始め、ビジネス形態という問題であるが NGO 等新しい息吹が始まり、新しい企業群がかつての大企業を追い抜きつつある。

旧来の企業の構造改革 風土改革が叫ばれ、新たなサクセスストーリーを求めて企業変革が生き残りをかけた変革の嵐が今吹き抜けている。

この嵐の中で、本当に生き残れるのだろうか・・・・・・不安とあせりがいりまじる不安定な日本の社会情勢ビジネスやるにしても社会にとっても 「価値の創性」がなければ、新しい流れはできっこない。これが企業風土の改革 構造改革のベースであろう。

ロートルがリーダーとして 縮小均衡・合理化の管理路線を追い求めても それだけでは 決して価値は生まれず、新しい企業に追い抜かれるだろう。

重厚長大型企業のジレンマがここにある。もう 旧来型 アメリカモデルのみでは生き残れない。

かつての栄光はもはや幻想であり、新しい創造に向けた新しい取組とそれを強力に推進するグループのみが生き残れるのだろう。

若い力が新しい創造を求めて動き出すこと 虚業から実業への真の実践を切望するのですが・・・・・・。

最近の TV を見ていると 価値観を忘れた 何かノーテンキな主体性のない若者の群れと旧を守ろうと

するかつての主流層 みんな ダメなのを知りながら 苦労のないこちよい響きに 自分もそんな中に身をおいている楽天主義と閉塞感

でも NP0 で働く若者の逞しさに今の企業が忘れた実践の価値をみるのですが・・・

まあ 今年は そんな時であったのかなあ・・・・・・ 1年 ぼやきながら 終わりそうです。

柏で迎える4度目のクリスマスになりそう。

来年は還暦 新しい未来に自分も・・・・と思っています。

2002. 12. 7. 週末の午後 柏で Mutsu

● 久しぶりに同級の仲間と会って

神戸で

12. 1. 神戸で尼崎の同級の仲間の会に行く。 恩師のN先生も見えられて

『「MUTSU」 明日みんな寄ってくるけど 神戸にいるなら 出といで・・・』と前日 三宮で焼き鳥屋の専門店やっているS氏より、ふいの電話。小学校からの仲間である。去年も電話くれたのに神戸に居らず欠席。

みんなクラスも違うのですが、中学や高校で 放課後 暗くなるまで スポーツやっていた仲間。

40年振りの仲間もいるのですが、全く遠慮や違和感がない。

でも みんな もう来年は60才になるのですが、元気・元気。話し始めたら止まらない。

自分中心で 何でも 良く知っていたように思うのですが、次々出てくる「今だから話そう」の話聞いているとビックリ。知らなかった事多いですね。

みんな 60年の人生しょってるなあ・・・・とつくづく思いました。

みんな いまだにスポーツと関係した仲間持っているのにも驚き。

呼んでくれたS氏も 脱サラして この生田神社鳥居前で店を始めて26年という。

神戸大震災にも遭って・・・・・・

柔道やっていた某君など 若い起業家顔負け。

「今から新しいベンチャー立ち上げる。 企業サラリーマンたち 元気出せ」 と・・・・

M氏はオールド ラグビーの世話しながら、今も ラガーマン。

そういえば『Mutsu』・・・・急に会社にあられよって と2年先に会社に入っていた仲間が入社頃の話をはじめた。

みんな ドラマを持ってるね・・・・・・・・・・。

最後はまた スポーツの話になって 「野球はもうちょっとで全国大会やったのにと・・・・」

僕らの高校に「熱風」という素晴らしい応援歌があり、何かにつけ集まると歌う歌。

「甲子園のために作られた歌」と思っていたのですが、スタートは「ラグビー」の応援歌だとか・・・・

作詞・作曲のN先生も当時を思い出しながら

若い女性が尼崎の再生かけて颯爽と市長に登場。

「スッチー」というらしい。 先日 選挙があって 42才の元スチワーデスの女性。

この話も出すと止まらない。

みんな 思惑や今までの行き掛りがりもあって 困惑と何か変わりそうの期待半分。

僕なんか 蚊帳の外 ふっとうらやましくなりました。

焼き鳥専門店 『栄太郎』 神戸三宮 生田神社 正面鳥居前 東急ハンズの向い
僕の尼の仲間のお店です。 うまい 鳥と酒 うけおい
機会あれば 一度 是非お訪ねください

東京で

12.6.夜 東京・銀座の小さな小料理屋で大学の仲間と忘年会。メールで「忘年会やろう」との声
自然発生的に東京の仲間が集まりました。

関西からもやってきて……。卒業して何十年もあっていない仲間にもあえて……。
みんな 卒業後 40 年。道は異なれども材料技術屋の年輪がきざまれ、実にいい顔。 もう 時間
が足りないほどみんなしゃべって 笑って。

熊谷にいる S 氏が「おい Nakanishi 蒙古の沙漠で 星見に行こう」という。

昔よく語ったシルクロードの沙漠。 南極や北極やアメリカのアリゾナ沙漠で
はあかんとという。

そういえば 昔 「……ゴビの沙漠に虹がたつ……」とよう歌いましたっけ。

でも また 一つ 楽しみできました。 実現できれば……

老年近く 最近色々な会のお誘いがかかると できるだけ でかける事にしている。

やっぱり 良しにつけ 悪しきにつけ 仲間がいる事は心強いとつくづく思っています。

12.7.朝 柏で 二日酔いで寝床でぼっとしている所へ 神戸からのクール宅急便。家内からの食糧の
差し入れ 「塩取る量へらせ」のコメントとともに
こっちのほうは こっちで 有難い事です。

2002.12.7. 小雨の柏にて

12 月ホームページのコメント 書きながら Mutsu

country walk

● 晩秋と初冬のいりまじる福島県奥会津の山里

2002.11.16.

1. 福島県 奥会津 舘岩村 奥会津曲家集落を訪ねる

紅葉の塩原溪谷を抜け 会津高原へでると 奥会津は冬景色
紅葉と雪景色が混じる晩秋の舘岩村へ
大正時代歩いた田代山山麓の水引集落・本賊温泉



家
日本の原風景
奥会津の曲家集落を訪ねて
舘岩村 前沢・水引集落



奥会津 舘岩村 水引郷 2002.11.17.

11.16. 奥会津はもう雪景色。家内と二人 館岩村 奥会津曲家集落を見にでかけました。
学生時代にいったことのある田代山麓の館岩村 水引集落と木賊温泉。
もう 記憶からきえかかっていた集落の風景。 堂々とした曲家が 沢山残っていました。

2. 奥会津の名勝 塔のへつり

－ 晩秋と初冬がいきりまじる 福島県 奥会津 2002. 11. 16. －



崩

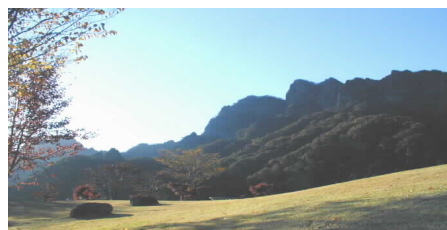
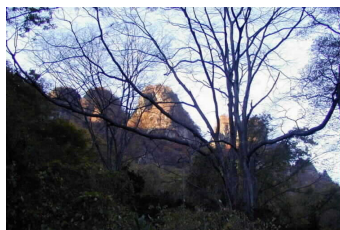
へつり（崩）って知っていますが
こんな漢字があるとは知りませんでした

凝灰岩の岩肌を阿賀野川が何万年もかかって削ってつくった「塔のへつり」

「へつり」に漢字がある等全く知らず。

両側が垂直に切立った崖には紅葉した木々の間に水によって削られた自然の石塔が立ち
美しい景観を作っていました。

● 群馬県 上毛三山 紅葉の上州「妙義山」の森を歩く 2002. 11. 10.



晩秋の日曜日の午後 関東の紅葉
の名所 上州 妙義山の森にはい
り、紅葉をみてきました
妙義山のあのゴツゴツした岩山の
異様な姿は魅力